

京都北山撮影紀行 ⑤

さん や しょう よう 山野逍遙

——見知らぬ溪谷への夢——

撮影 北川 裕久



夏空の風化木（峰床山）

まだ見知らぬ溪谷に夢をいだき
地形図から読み取れぬ谷の様相を
さまざまな角度から想像する。

何故私はこの谷を

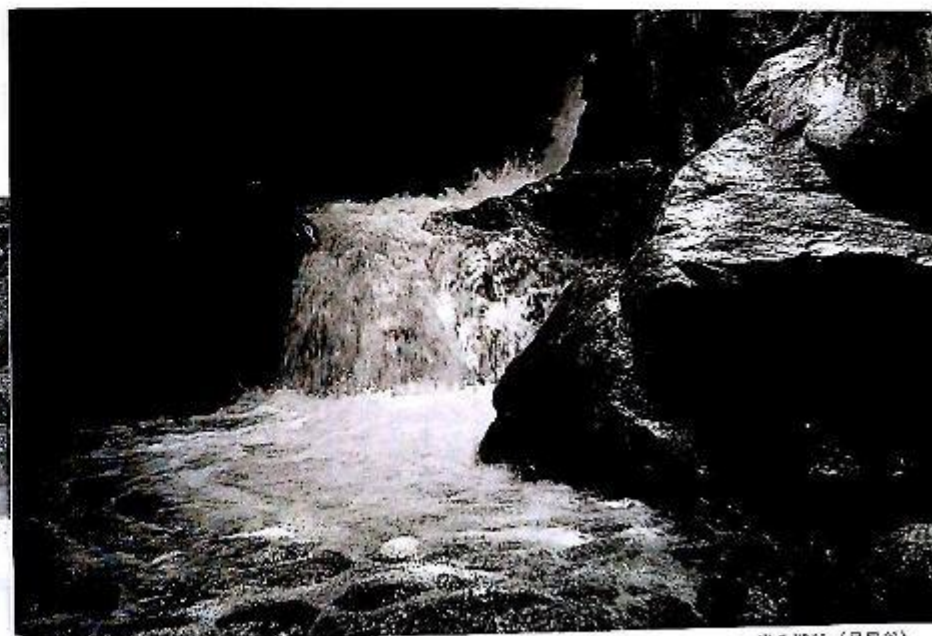
踏破しようとしているのか
それは自然への挑戦でもなく
自己の身体や精神を
鍛えるわけでもない

“魅力”という目に見えぬものに
取りつかれ

いつしかその溪谷の中で
悪戦苦闘している自分に出会う
緩やかな流れは安堵感を与え
瀑音轟く滝には挑戦的な姿勢となる
踏破した後の満足感は語れず
ましてや言葉にならないだろう



雨にけふる区三沢（魚谷）



光る溪谷（足尾谷）

●目次

表紙：松田敏男「ダケガンバ林と赤石岳」(南アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ、京都府立芸術大学卒。
1971年より山岳探険、山岳部の副部長兼副部長、(京野山会副部長、南アルプス治水小隊、南
京野山会副部長、日本山岳会副部長、一年二回山岳研究員)

●グラフィック 京都北山撮影紀行⑤ 山野逍遙……………	北川 裕久 2	
随想「山のエッセイ」……………	平野 耕也 6	
クマの話……………	内田 嘉弘 7	
新幹線から見える山―車中からの楽しみ……………	出口 悠次 8	
山歩き雑感……………	松田 敏男 9	
紀行「光岳から聖岳へ」……………	稲垣いつを 12	
由布岳……………	浅野 幸一 15	
●(連載)日本富士山紀行3 槍ヶ岳……………	草川 啓三 19	
岩間山から立木山……………	渡津 米男 22	
駒ヶ岳(守山)……………	安田 豊弘 26	
羽束山・布見ヶ岳・大岩岳……………	多摩 雪雄 28	
栗口山と奥高山……………	エリア 京都北山会 安曇川源流・八丁平・久多周辺の山 別研究 涼を求めて、北山の溪谷美を歩く(楓楓)……………	北川 裕久 32
①皆子山……………	34	
②足尾谷湖行……………	35	
③八丁平と峰床山……………	36	
④三國岳……………	38	
●文学歴史探訪ハイク⑤天川・弥山に涼を求めて……………	京都北山グループ 松永 恵一 39	
①良山……………	内田 嘉弘 42	
②南高山……………	慶佐次盛一 48	
③八洲の滝から北良山……………	濱山 啓司 50	
④金鷲岳……………	村田 智俊 52	
●アウトドア・ライフ入門⑤	24	
山菜・野草料理……………	二名 良日 46	
●たのしい山歩き	46	
尾瀬ハイキングガイド……………	松下 満 62	
せせらぎ……………	66	
サービステニーン……………	68	
治部ハイキングガイド……………	57	
バス時刻(台湾)……………	60	
原稿募集・庶務案内……………	60	



北岳より間ノ岳・農鳥岳を望む(南アルプス)

編集室



北岳山頂(南アルプス)

編集室

巻頭言

本格的な夏山シーズンが始まり、展望と花を求めて北アルプスなど山岳地帯への登山が多くなる。

例年のことながら連休後の5月6日付夕刊紙はいつせいにゴールデンウィーク中の山の遭難事故を報じた。それによると北アルプスや富士山を中心に相次いだ登山者の事故は84件にのぼり、死者29人、行方不明者4人、重傷者46人になって、死者・行方不明者は過去20年間で最悪の記録になったとある。たしかに今年は低気圧の通過で山岳部は暴風が吹き荒れるなど天候が悪化し、接線や崖根からの転落事故が多かったらしいのだが、いつものことながら山を愛する者にとって、こういった報道には身をつまみせられるものがある。

遭難者の中に関西の人も多く、もしやと思つて確認したが、新ハイキングクラブ会員の名前はなかつた。夏といえども、雑沓のカラグラフィアのよきな好天はめずらしく、むしろ雨・風・寒さ、ガスにまかれるなど危険がいっぱいの日が多い。

これらの危険に対応できる技術と体力を日頃から培い、十分な装備と、無理のない計画で安全第一の夏山登山を楽しんでほしい。と願つた。

新ハイキング関西 公表 村田智俊



クマの話

平野 耕也

京都北山にクマがいるか？ ツキノワグマのことだが、うんと北の西生原牛林あたりには確かにいるらしいのだが、産生のグム保護に反対する連綿会、産生の「森の通り帳・産生への招待」によると、山を歩いていてクマに出会うことはめったにありません。特に夜行性というわけではないようです。から、たいへん用心深くて人の臭いや物音でまず先に逃げてしまうためでしょう、とあるのに、もつと人里に近いところを歩いていて、よくツキノワグマに出会ったという話を耳にする。

嵯峨石山の裏でクマの臭いがしたとか。
持統院から水室へ行く途中として道を尋ねたら「途中で熊に出会った

まつせ」と驚かされたし、竜ヶ岳への登り道で熊を持ったハンターから「昨日、ここでツキノワグマを一頭仕止めた」などと自慢話を聞かされたこともある。

だが、これらの話は皆ウソである。確かに鉄製のクマのオリも見ただけであり、中には御了堂に飾るまでぶら下げられていたが、察するところ、人は皆クマを見たのである。

小生の京都・北山歩きに熱中している姿を知っている同僚から「一度北山へ連れていってくれ。クマが見たいので……」と言われてア然としたこともある。

クマへの悪態などのこれらの關心は皆おぼえかどうか。

まあそれだけ自然への關心が高まりつつあるとも言えないことはないが、よく考えてみると、人は皆、いつもたたくさんあるものには無關心、それが今日にも消えてしまっても知れないというときに、それを惜しんでワッと集まるという

うことと似ていないか。大阪で言えば大國園のシネママ映画のOS劇場がいよいよ閉館と決ったときに急に客足が増えたというような。

そう考へてくると、最近の、人々のツキノワグマへの悪態などほどの關心の高まりは、今、日本の山々からツキノワグマが急速に減少し、絶滅の危機さえ迎えていることのおそろいではないか、とも思われて少々不安なのである。



随想 (山のエッセイ)

新幹線から見える山

一車中からの楽しみ

内田 三編弘

新幹線で東京に向かう時は、いつもキップは自由席を買い、そして進行方向の右側窓に座るようにし、米原付近からは左側に席を変えようとしています。何故かと申しますと、米原までは近くの山は右側に見え、米原からは左側にそれが変わってくるからです。

京都駅を出ると、まず右側に福寿山の山並みが見え、すぐに東山トンネルに入ります。それを抜けると山科、ここからは音羽山(五九三m)が前方に見え、それがぐんぐん迫って来て、この山頂直下の音羽山トンネルに入ります。前方が明るくなり石川、瀬田川を渡る瀬田アルプスの笹間ヶ岳(四三三三m)、紫雲山(五五三三m)、矢倉

ヶ岳(五六二五m)、こんもりとした大神山(六〇〇m)が見えてきます。これを過ぎると金勝アルプスの鷲冠山(四九一m)、竜王山(六〇五m)に続いて阿蘇山(六九三m)、その左側に飯道山(六六四m)、鳥ヶ嶽(四八六m)、圓生一号線の渡方に油井岳(六九四m)、鈴鹿の頭峰(総本山(一一〇〇m)、これらの後に新幹線附近に別名近江富士の三上山(四三二m)が現れてきます。そして鈴鹿山脈で一番の山容を誇る御池岳(二四一m)、笠の形の高室山(八一七m)、鍋をひっくり返した形の鍋尻山(八三八m)、御池岳と高室山の間に見えているのは三国岳(八一八m)か？ 続いて鈴鹿山脈の北端の雲仙山(二〇八四m)のたおやかな峰。左側はどうかといえは、草津あたりからびわ湖越しに比叡山(八四八m)、横高山(七六五m)、大井山(七九四m)と続き、近江八幡から彦根にかけては比良連峰から湖北の山々がびわ湖に写し出されてきます。

米原付近で席が空いておれば、左側に座り変えます。すると伊吹山が堂々とした山容で迫ってきます。その左隣の七尾山(六九一m)、天宮寺山(九一八m)、己斐山(九三三m)は確認していませんが、これらの山々は見えないはず、(現に私の山仲間はこの二山を確認している。近江と岡を過ぎ奥ヶ原、大垣と近付くと龍田山(九二四m)、右側には嵯峨山脈、しかし、これが嵯峨山かは分からない。龍田山の右突に大きな山がみえるが……多分小津権現(二一五八m)ではないだろうか。その続きに塔の倉(七一六m)、タンゴ(二〇六六m)、西吉山(九四九m)、妙法ヶ岳(六六七m)と山並みが続いているが、時速二〇キロを超える新幹線からはいちいち確認は出来なかつた。天気が好ければ雲那山(二一九〇m)も見えはするが……。やがて山並みは遠ざかり、木曾川を渡る可和山が押し寄せ、○の峰の林立するヒルディング山群の名巨屋敷に到る。



随想 (山のエッセイ)

山歩き雑感

出口 憲次

阿呆と煙は高い所へ上がる。とうちのオバはんから何時も言われ、知人からも「ようエライめをしてなんしに山へ行かほるね」と那論されるように言われるが、登山というスポーツをやった者にかわらない。山の醍醐味の説明の仕様がなない。

千メートルに満たない重責たる山腰の丹波高原の東端に位置する北山の魅力に惚りつかれ、三十有余年になる。

古道とケモノ道の交叉する登山、北山は未知の追究という闘志を排かされてくれる。身近な生活圏内にあることに感謝する次第である。

山というスポーツは、相手チームが自然という、握みようのない

ものだけに、ルールもジャッジも無い。これを甘く見て取り組むと無残な敗者になることは当然で、山の事故が報せられるたび、一番先に年令が若いか中高年かを、見ると、友人陣さんが何時も言っていた気持ちがよくわかる。

無理をしないで、山というスポーツに取り組むことが一番大切なことと肝に銘じ忘る次第。年寄りの冷水と「言われないうちに……」

先日も娘の子がはいを見る。危険に遭遇した時の動物の直感力人間にはなかなかすぐには対応出来ないが難を見ても驚く。6-7羽の雛を運れた親子に会う、途端に親が5分程飛んで地面にぽたぽた転げ回り夜々の目を引く、その間に雛は四散し、散に逃げこんでしまう。これを鳥の偽装工作という、弱者生存の姿だ。

カワセミの魚取りの名人におどろく。湖の上の枝でジツと我極静止の姿、ちよつとでも小魚が水面に上がれば電光石火のダイビングで喰え取り、岩頭に叩きつけ殺し

近くの奥の雑に与える。動物の狩獲方法、一つ見てもカンの大切さを知る。

蟻地獄という昆虫の生き方。蟻地獄は蜂の脇でよく見る溜まりの細砂の穴。小虫がウツカリその穴に落ちると、脱出しようともガキ供も、細砂が流れ落ちますます脱出不能。突然砂底より二本の触角が現れ小虫を捕獲、砂下に吞みこんでしまう。これが蟻地獄の幼虫の巣でここにも蟻の援助無しの生存競争の厳しさを見る。

子供達にも蟻地獄の姿を見せれば、危険なホッパー付近での遊びで直感的に対処すれば無残な事故も起ころなかつたと思つた。

ともかく山登りというスポーツは、男女、年齢差を問わずチームを組める楽しいスポーツであることにはまちがいないと信じて。



深い原生林、そして天上の楽園

光岳から聖岳へ

松田敏男

南アルプス

関西に近い伊那側から、南アルプスへ入る一般コースは、二本ある。北より順に、伊那市から戸台、北沢峠を経て、甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳など南アルプス北部地域へ、次に伊那大島より鹿嶺、二伏峠を経由して、塩見岳または荒山岳に赤石岳など中核部へ、そして三本目は飯田線平岡駅より和印を通過して、遠山川沿いに奥へ入る奥岳、光岳など、南アルプスの南部のコースである。北沢峠へは、自然破壊問題で名を馳せた南アルプス林道の村営バスを利用すれば、6月中旬〜11月初旬運行、簡単に入れるようになった。二伏峠へは、昔からの人気コースとして、夏に賑わいは登山口塩川までバスが入り、シーズン中は賑わっている。

それらにひきかえ、本項の遠山川を深く分け入る道は、いまだに静かである。しかし易老道から易老岳への登山道がしつかりできた現在、魅力あるコースとして登山者が増えつつあるようだ。名古屋からの高速バスが通過してから、ずいぶん伊那側からも行きやすくなった。北郷や中部の地域なら、暫く出発すれば、その日の夕方には緑の小舎に入れるようになった。ただしこの遠山川コースだけは、よほどの健脚者でないかぎり、タクシーを利用して、緑の小舎へは行けないだろう。それよりも麓の旅館に泊まって、次の日に原生林の中の道を、ゆっくりと歩きたいものだ。

易老道まではタクシーを利用する。遠山川

光岳より赤石、聖岳方面を望む



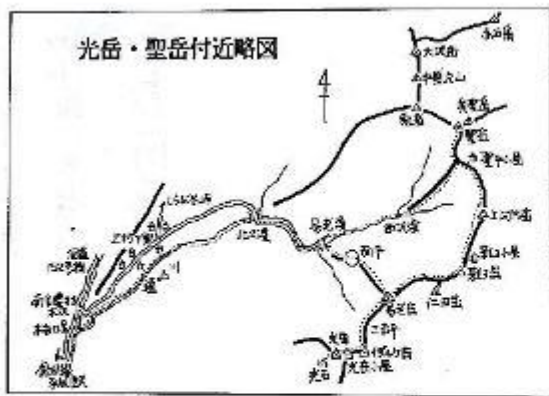
沿いの道を歩けば、本谷口バス停より4時間程の車道歩きである。自家用車であるなら、立派な道が北沢まで、遠山川の北側の高い所を通過している。その尾根から中核にかけて散在する集落が、下界である。12月中旬から正月にかけて、近隣のいくつもの集落で、正月祭が行われる。夜を徹して続くその儀式は、現代文明社会に生きる者の眼には衝撃的だ。その中でも下界で行われる正月の霜月祭



茶臼岳より聖岳を望む

は、特に印象深かった。雨の強い谷々煙が急斜面を覆い、奥へ奥へと幾重にも山腰を分かちながら続いていく深い谷、遠山川。その隙にすどろく天を突いて白銀に輝いている聖岳。どことなくヒマラヤの麓にきているような遠かな気持にさせた。今やアスファルトの立派な道路が通じていて、20年前に訪れた頃とは、今昔の感があつたけれど。

易老渡へ行くには、しらびを峠への、これ



える。尾根の北側に出ると、南アルプスの山々を一望できた。左より大沢岳、中盤丸山、丸岳、奥に常川岳と赤石岳。そしていちばん右が聖岳。左奥には仙丈ヶ岳も顔を出している。誰も来ない所で、こんな安眠な眺めをひとりじめできて、最高の気分だ。

光岳小屋に泊まり、翌日往路を戻っても充分満足できるが、日程に余裕があるので、

も立派な道左に分けて、直進する。そして北又谷へおりの右へ曲がる道に注意しよう。ここは直進してはいけない。遠山川を渡り、左に折れて、川沿いに奥へと進む。

易老渡には立派な橋がかかっていた。易老岳までテープがしっかりとついていて、道もよく踏まれている。直平は樹林帯の傾斜の緩い所だ。登りついた所に標識があり、しばらくの間、面平の中を行く。送いやすい所上、以前の地図などに記されているが、テープがたかさんついているので、ていねいに足で探れば大丈夫だ。

道が一本にまとまって、原生林の中を登る。すわるのにもよじり高い高さの倒木があちこちにあり、ゆっくりとシラビソの林の中で進む。南アルプスの深い懐に分け入った喜びが、しみじみと体に沁みこめる。広い尾根がだんだん狭くなってきて、三角点があつかりと道にある所に着いた。単なる通過点で樹林の中。易老岳まで高差が1000mの目安ぐらいの役には立たないけれど、三角点に読まれるように盛つてみた。周りには、シラビソの根張りが生き物のようにながらっている。標識へ出れば易老岳だ。頂上という程のものではないが、小さな広場になっている。

左は明日行く茶臼岳。今日は右へ行く。

送うことのないしつかりした道が下ついている。三百坪付近には、ちよつとした水たまりがあつて、その前の古むした原木に腰かけてみた。霧が立ちこめ、夢想的な景色に心はさままよう。三百坪より緩やかな登りが続く。左に流れがあらわれて、樹林となり、いままでの内気な気分から、ぐつと開放感あふれる明るさになった。トリカブトを主林にした花々が、道に沿つて行く先かたまで、軒状に映き残っている。これだけ多く、艶のある濃密な紫色の、リカブトを見るのは、初めてだ。イザルヶ岳方面の展望が開け始め、水場に溜っていた、清らかな湧き水がよまなくうれしい。もうこの先は、ほとんど登りはない。広々としたセンジク原に出て、イザルヶ岳への道を左にみる。平地のいちばん奥に光岳小屋があつた。小さな静かな小舎であつた。南アルプス南部にはめずらしく、食事も用意してあった。

光岳山頂は、小屋より15分ぐらいの所だ。もう少し先に光石が分岐がある。光石は思ひなぐらひ白い岩脈だ。深い緑の山中に突如として現れるふたつの岩塊は、不思議な雰囲気をつくつていた。分岐に戻つてもう少し主稜線をたどつてみると、光石が樹からよく見える所に行けた。名前の通り光つているように見

茶臼岳、上河内岳、そして如平へと行った。茶臼小屋、聖岳小屋、共に茶臼まりであるが、昔ながらの風情を残したい小舎であつた。聖岳小屋には、高松総合体育大会のために建てられた立派な小屋もあつた。もうこのあたりは南アルプスのメインストリート。展覧会、花々も、高山の気分も、そして人の多さも、すべて完備していた。聖岳山頂から20分ばかり先の、聖岳岳へも行った。二つの峰の間の岩と花とのとり合ひは、天上の楽園であつた。そして聖岳からは、赤石岳が一層印象に残した。

如平より西沢渡への道は、原生林の中の一っかりした登山道として、南アルプス随一ではないだろうか。さるおがせが垂れ下がっている深いシラビソの林。古むして倒れている太い幹に、朝霧が一条の光を受けてキラキラと光っている情景などは、南アルプスの大きな魅力のひとつだ。深山の雲霧の中で、何百年も生きてきた樹がそのいのちを贈り、古むして、いろんな生き物にいのちを与え、土となつていく。また数百年にわたるいのちの始まりが、その根元に新芽となつて、あたたかな光を受けている。いたずらに生き物のいのちを奪い取っている人間のひとりも、同じくあたたかな光を受けて、そこに居る。周りの

生き物たちもそれぞれを問わない。たどることで解となつて、他の生き物にいのちを与えても、ただ道を通ることは、合成化合物が汚物となつて分解されずに残る。それは他のいのちを奪い続けている証ともなる。

シラビソを主林とした長い長い尾根を下る道も、目印がたかさんつけてあつて迷ふ心配もなく、西沢渡へ降りられた。西沢渡の本橋を渡つて広い道に出た。暑い暑い下界があつた。

(平成3年8月5日・10日歩く)

△コースタイム▽易老渡(2時間) 頂上(3時間30分) 易老岳(3時間) 光岳小屋(7時間) 茶臼小屋(6時間30分) 聖岳小屋(7時間) 西沢渡(1時間30分) 易老渡 聖岳より易老岳まで(5時間30分)

△地形図▽2万5千1光岳、上河内岳、赤石岳 5万1赤石岳

△地図 △聖岳、赤石、聖岳

△易老渡と西沢渡との間に、標が島登山小屋という新しい小舎が、六月中旬にオープンした。

見目麗しき双耳峰

由布岳

名古屋発8時20分の「ひかり29号」で九州へ。小倉で「にちりん23号」に乗り換え13時47分別府着。高校の修学旅行以来の訪問である。同伴者は小六の息子とその母親。駅レンタカーを借り、息子の要望に応じて、先ずは高崎山とその頭の水旅館へ。ひどい波瀾で40分もかかる。いつもこんな調子なのだろうか。高崎山には約1700匹もの猿が三群に分かれて生息しているそうだが、「たがや、Bグループ450匹」という案内であった。すばしっこくてせいこい奴。それでナルをやつていけるのかと心配なほど。気の小さな奴。ボスはボスらしく、小物は小物らしく、人間社会をながらの、個性豊かな様相は見えていて飽きることがなかった。入園料は500円。

稲垣 いつを

豊後

願のマリンパレスには、馬場町とかの回遊式木橋があり、ちやうどマリンガールによる傾つけが行なわれていた。イシダイの輪くぐりやナツボウウオの射水などの実験ホールもよかつた。背泳ぎ名人のラッコの前では、それを得意とする二十年来のパートナーも、しばし自信喪失という感傷であった。入園料は1050円也。

15時30分。10号線を別府にもどり、九州横断道路(やまなみハイウェイ)を今日の宿城高原ホテルへ向かう。途中、ロープウェイで鶴見谷に登る。別府ロープウェイ高原駅からわずかり分て、1375mの山頂近くまで運び上げてくれる。やまなみそんな楽をしでどうするんやと言われそうだが、もう結構

神楽女湖から由布岳(左)、鶴見岳(右)



な年やし、今日は大小二つのコブつきやし、今日の目標は由布岳やし、ロープウェイの経営は近鉄やし、なんのこっちゃやんのこっちゃのエトセトラということだ、とにかく鶴見岳の人となる。

山頂付近は、0時先も見えないくらい濃霧。すぐ西に由布岳があるはずだが展望はゼロ。ミヤマキリシマが群生しているが、花は既に枯っている。野外に設置させたジャンボ

「言われるだけあって、暑からず、本音に暑からず快遊この上ない。

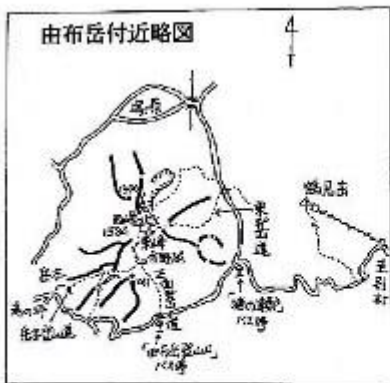
息子は、早速どこかで見事な雄のカブトムシをつかまえてきて「獲物。パートナーは、いつものミニスケッチブックを取り出して、そしてボクは、何もしないことを楽しんで、夕食は息子の要望に添えて洋食。ポルトガル・ワインがおいしかった。

登山のペースにするには、このホテルは少々ラックス過ぎたようだ。朝めしを早い日になんてなかなか頼める雰囲気じゃない。特注の盛り飯、これも言い出しにくい。強く頼み込めばもしかしたらというところもあるが、そんな心算の持ち合せはない。結局、ホテルの売店で急遽買込んだビスケット類をリュックにほうりこんで、7時朝食、8時出発と相成った。

やまなみハイウェイを湯布院方向へ車で10数分走ったところに、バス停「由布岳登山口」がある。標高780m。正面登山道の入り口である。左手に駐車場ととされたトイレがある。登山口はハイウェイの右手(北)。備え付けの登山道標に記帳し、いざ出発。8時35分。アップローチはなだらかな草原。すねで草を押し分け押し分け、正面に登え立つ山頂を富士と由布岳に向かって約10分、まっすぐ

に進む。乳色の雲が頂上付近をせわしなく駆け巡り、なかなかその会合を見せしてくれない。「放牧の牛が入りこまないように必ずしめて下さい」と記された標の扉を引いて、樹林帯に入る。しばらくはブナを含む雑木林がつつき、やがて見事な櫛形になる。それが悲しい松山にかわったところが、「由布登山口」との合流点「合野越」という少し開けた展望所である。松山はしばらく続き、次第に灌木にかわる。道はジグザクを繰り返して急登となる。シュロソウ、フワロ、ウツボグサ、ホテルブクロ、ワレモコウ等が目につき始め、やがて一気に視界が開ける。ガスで見え隠れする頂上付近の岩壁が、既に頂上にせまっている。天然記念物だというヒゴタイが、アザミに似た花を咲かせている。実物を見るのは初めてだ。道は次第にガレてますますきつくなる。花がなければ、かなりしんどい道だ。息子の宿願「白山研究」の花形撮影に付き合いながら、ゆつくりゆつくりと高度をかせぐ。すれちがいのおじさんが「あと20分くらいです」と励ましてくれる。

10時30分、登山口から約7時間、ようやく西峰と東峰の鞍部に着く。標高1476m。西峰へ20分、東峰へ15分」の標識がある。風がきつい。ガスがはしっている。冬にはみこ



由布岳付近略図



西峰を下る

とな籍次の花が咲くことだろう。休んでいると寒いほどだ。思わず腕まくりを解く。まづは左手、西峰の岩稜をめざす。三点支持が続く。鎖場がある。ひょうきん族の息子もさすがに真剣な顔をしている。15分ほどで西峰はガスが濃く何も見えない。麓から抜さつ抜かれつしてきた唯一の道づれ、愛知原からみえなどという、中年の男性が到着。ところが奥さんの姿が見えない。「家内は鎖場でストップです」「だいたいようぶですか、ほうつておいて」と心配しているところへ、「なんとか交れまして」と奥さんも到着。結局ガスは切れず、東峰の展望に期待していったん鞍部を下る。

東峰へは特に危険な箇所もなく、11時30分、西峰よりはやや狭い溶岩主体の稜上に立つ。標高は西峰と同じで1584mとあった。うまい具合にガスが切れ始め、その切れ目に通

く九重の山々が見え隠れしている。先客は西峰をパスしたというところまでのパーティー。いずれも4〜5人の家族づれ。うち一人のおじさんが、これで二度目だと誇らし気にしゃべっている。誰かにこの山は、見上げてよし、展望よし、「二度登る価値」だなんて突ったりはできない山だ。ボクもひそかにもう一度来たいなあ、多分来るだろうなあと思ったりしたそんな山だ。ただ一つ難を言えば、このコース、水に乏しいということか。

さていよいよランチタイム。にぎり飯やら、たまご焼やらを、おいしそくに頻張る他パーティーの賑わいを鑑目に、こちらは、これこそが雄の山弁ですという顔をして、ホテルの売店でやつとこ買込んだ「カボチャパイ」で、クレープうるさい腹の虫をおさえたのであった。

11時55分、二つのゴブと別れ、東登山道を下る。手持ちの地図に、「初心者行動無理」とあるように、しばらくは、足場の悪い岩だらけの道。ほどなく、琴原口登山道への稜線を左に分けるが、この辺りからこれまで急な岩場を一気に下ることになる。1時間程度で日向分岐。直進すれば日向岳。右に折れば正面登山道に至る日向観察塔。左に下れば東登山道口である。ここから東登山口までの下

り30分は、コナラ、イヌシデ、アカシデ、ブナ等の混生林で、道もよく、ルンルンの自然観察道であった。登山口には遊歩小舎とトイレがあり、「炭原」と「やまなみハイウェイ」をつなぐ道が南北に走っている。この道を右「南」へとつて、てくてく下ること20分でやまなみハイウェイの「猪の瀬戸」のバス停に着く。そこで、正面登山道を下った相棒2人と合流。13時45分、空はずっかり晴れ上がっている。

14時、ひとまずホテルに戻り、14時30分改めて湯布院へ向かう。途中、様々に姿を変え、由布岳の雄姿を納めず。

をとめらが放つ髪を、木綿の山梨なたなびき家の雪見む「刀栗集」巻7・(二三四)やはり由布岳はみめうるわしき秀樹だ。

(平成3年8月7日歩く)

△コースタイム▽やまなみハイウェイ・バス停「山布岳登山口」(45分) 合野越(1時間15分) 取上下鞍部(20分) 西峰(15分) 鞍部(15分) 東峰(1時間) 東登山道・日向分岐(30分) 東登山口(20分) やまなみハイウェイ・バス停「猪の瀬戸」

△地形図▽2万5千—別府西編

連載

日本霊山紀行 3

槍ヶ岳

3180m

浅野孝一

山登りを始めた人のあこがれは北アルプスそれも槍ヶ岳であるようだ。「山と溪谷」誌一月号のアンケートをみても槍ヶ岳、穂高岳、白馬岳が上位に位置している。

私も人後に落ちず、「一昨年昨年と二度にわたって槍ヶ岳に登った。前回は多くの登山者に気おくれして頂の神へ登らなかつたが、昨年は早朝快晴にあぐまね、仲間とさそわれて久しぶりに絶頂に立つて感激したものであった。狭い山頂の一角に小祠が安置されていた。霊山として槍ヶ岳を見た場合、立山、加賀白山、富士山に比べて特に修験道としての存在は著無に等しい。その理由として考えられることは、槍ヶ岳が山里から遠く深山でありかつ險阻であつたかと考えられる。

槍ヶ岳へ初めて登頂したのは橋上上人であった。橋上上人は文政6年(1823)笠ヶ岳山頂からはじめて槍ヶ岳を見、槍ヶ岳山頂の決意をきめたと伝えられている。

橋上上人は「信州神皇正統記」をあらわし、その中で文政11年(1828)の秋に槍ヶ岳に登頂し、山頂に須の阿弥陀如来、親世菩薩蔵、木像の文殊大士を安置したと記録している。橋上は天明2年(1782)、越中田新川郡太田祖河内村に生まれ、19才の時出家して、笠ヶ岳などへ登頂している。槍ヶ岳へは都合四回登山している。小倉村より中田又重郎の家内で坊主若小屋を足場としている。現在槍沢上部の登山道のかたわらにある若小屋がそれである。

槍沢を登る



それ故日本の他の霊山の様に修験道による開山という過程はふんでいない。橋上上人の執念による登山が槍ヶ岳開山であつて、修験行方途の遺蹟がないのは、その故である。

さて高橋式編纂の「日本山岳志」は、「嶺嶽 飛騨國吉城郡御園、南安曇郡二時ル、吉城郡上賣村大字神坂ヨリ五里、(或云風凡六里十八町) 南安曇郡安曇村字宮川ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス、標高一萬二百四十八」とあり文



槍ヶ岳から穂高連峰を望む

中に槍という字が当てられている。小島鳥水「日本アルプス」第三卷中には槍の漢字が使用されている。この時代意外と人々はあて字を使用していた事がわかる。御本峠を徳合峠と書いた文献を見る事も出来る。

槍ヶ岳が一般に槍りははじめられたのは明治期に入ってからで、明治11年(1878)日本アルプスの命名者、W・ガウランドが槍りその存在を内外に発表した。ついで明治25年

(1892) ウェストン等が登頂している。明治35年(1902)には陸地測量部の西井武、中島田代師等が登って二等三角点を設置した。

昨年私が槍の穂即ち大槍に登った時考えた事を記してみたい。以前にくらべてその登路はむづかしくなった様に感じた。勿論秋の年輪から考えてみた事であるが、岩場にある手がかりが軽度に少なくなったような気がする。時にはあるべき処のピンが脱落し、ピギナーに対して危険きわまりない岩壁を強いる箇所もあった。登山は年々高齢者の率が多くなっている。基本的な登山知識の少ない登山者も多いと聞いている。

特に槍ヶ岳のように毎年多数の人々の登る岩場について、地元及関係自治体は注意をはらわなければいけないものと考えている。勿論登山行為は各自が責任をもって行動しなければならぬものであるが、最低限の整備は必要であろう。それから思うと、江戸期の藩邸上人達の登山行為には頭の下がる思いがする。

昨年は8月下旬穂高からの喜作新道、即ち表銀座コースを槍ヶ岳へ登った。しかし雪山としての槍ヶ岳へは播磨上人のたどった槍沢

からのコースを説明してみる。
第1日目は横尾山荘に泊まる。2日目、横尾をすぎるとさしもの梓川も本谷川と二分したせいか水量が少なくなり、溪谷も狭く樹林帯の間を流れ、樹林の中の登山道から流れの近くに激流を見る事が出来る。一ノ俣、二ノ俣をすぎ、槍沢ロッジの先から河原通しとなる。赤沢岩小屋の前方に槍沢が広いU字谷となっていてのが見えてくる。早い時期はこの辺から噴霧となる。

登山道はすぐ右側の薄木帯を歩き、水俣兼通への分岐をすぎてもう大きく左へ曲り込む。前方に霧帯をまとった山々が見えてくる。



あたりは一帯の梅花畑となり、その間を登ってゆく。槍沢には大きくわけて急坂が二つほどある。下の段止の登りとなり登山道は沢沿いと右手の斜面に分れるが、どちらを登っても苦しい。左に天狗原が見えてくる。登山道は派手な離れ、石のごつごつした斜面を登り、坊主の岩小屋に着く。右へ大槍ヒュッテの道が分れる。坊主の岩小屋付近には石仏やケルンがある。江戸期槍ヶ岳の開山をめぐした播磨上人がここを居場所とした遺蹟であり、大槍が眼前に控えてくる。

右に殺生ヒュッテがせまり、そこからの登山道が合流する。槍ヶ岳山荘が間近く、大槍が頂上を圧するようになり再び、最後の力を尽きにそそぐ。

3日目、大槍への登頂は早朝から登る。岩は夏でもつめたいたので手袋が必要だ。岩場の途中は一方通行となっている。山頂直下はホールド、スタンスがやや取りにくい。慎重に行動してゆきたい。又山頂は狭いので悲落せぬようにしたい。下りは登りよりゆっくりに下りたい。

槍ヶ岳を登ったよろこびを心して下ってゆく登山道は岩の凹凸がありつまづきやすい。注意して歩きたい。

槍ヶ岳付近は立山、白馬岳と云い永河連峰

の多い所である。槍沢の中ほどにある天狗原はカールで、湿地帯に小さな池が点在する別天地となっている。時間に余裕があったらちよんと寄り道をして、天狗池のほとりから槍ヶ岳を眺めてみたい。往復3時間はかかるものと思える。今一度梓川沿いに泊まってゆつくりしたいと思う。

毎年6月の下旬上高地でウェストン祭が開催されるが、初めて槍ヶ岳へ登頂した播磨上人の事を知る人は少ない。槍ヶ岳山荘の食堂に播磨上人の像がまつられている。槍ヶ岳山荘の穂刈三平、穂刈源蔵さんの播磨上人に対する尊敬の念のあらわれである事を記してこの項を終りたい。

△参考タイム▽「1日目」上高地14・35―明神15・35―15・45―標高16・30―16・45―横尾山荘17・45(泊)「2日目」横尾6・35―槍沢ロッジ8・30―8・50―大池原分岐11・20―12・00(昼食)―槍ヶ岳山荘15・30(泊)「3日目」槍ヶ岳山荘5・00―大槍5・30―5・45―槍ヶ岳山荘6・30―大狗原分岐7・20―7・30―槍沢ロッジ10・00―10・20―横尾11・30―12・30(昼食)―標高13・30―13・40―明神14・40―14・45―上高地15・30(地蔵湯)2万5千―槍ヶ岳・上高地・穂高岳

地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア

GRINDELWALD
グリンデルワルト

営業時間 AM10:30~PM8:00 毎週月曜日定休

三重県四日市市諏訪町13-3 TEL 0593-54-0627

新ハイキング選書

【第1巻】 佐藤 節著
西上州の山と峠

★再版発売中ノ
東北地方から上信越の山の紀行集。よくこれだけの数の山を歩いたと驚くほど。内容豊富な力作の集。
●上製本・B6判364頁
●定価1648円(税別)

【第3巻】 佐藤 節著
漂泊の山旅

★好評発売中ノ
東北地方から上信越の山の紀行集。よくこれだけの数の山を歩いたと驚くほど。内容豊富な力作の集。
●上製本・B6判364頁
●定価1648円(税別)

【第6巻】再版出来ノ 松本雪枝著
花の山を行く

★好評発売中ノ
その足跡の広い、山の花をたずねてのしみじみとした紀行文集。
●上製本・B6判356頁
●定価1650円(税別)

【第9巻】安藤正義ノ市川静子ノ多摩雪華ノ富田整平ノ松本浩 共著
一等三角点の名山100

★重版発売中ノ
北海道から沖縄まで、全国1000座の一等三角点の山々の最新の紀行案内文庫。詳細なガイド地図入り。
●上製本・B6判336頁
●定価1650円(税別)

【第10巻】 沢 聰著 画と文
四季の山

★最新刊・好評発売中ノ
春の山、夏、秋の山、冬の山と、季節による山の紀行集。著者は文筆の人であるが、また、導入の数字の多い、じつと語りだす。秋がたつてきまき、地形図入り、カラーイラスト入りで、案内書としても役立つ。内容の山は、一般向きの良い山が多い。
●上製本・B6判344頁
●定価1650円(税別)

【第11巻】 大石真人著
いで湯浴泉記

★最新刊・好評発売中ノ
あまり知られていない温泉を調べた記事が多く、また、知られていない温泉についても、説明に詳しく、すべての温泉の配置図を入手し、温泉の案内書として、温泉歩きに長い経験から、話題も豊富に、読者のためにも楽しめる温泉記になっています。
●上製本・B6判320頁
●定価1700円(税別)

【第12巻】 新ハイキング選書 後藤典重 編著
東海自然歩道を行く

★最新刊・好評発売中ノ
歩き続けて2,174,470歩。1,343キロ歩道の記録。
●上製本・A5判112頁
●定価1300円(税別)

【第13巻】 小林経雄著
甲斐の山

★最新刊・好評発売中ノ
この本では、甲州の山々を白山、二毛山といわず、なるべく詳しく紹介しようとした。甲斐の山について、植生、地形、観光、山名由来、その山にかかわる歴史などを簡明に記述。
●上製本・B6判360頁
●定価1800円(税別)

巡礼道を歩く

岩間山から立木山

草川 啓三

湖南

攝津湖から流れ出すただ一つの流である瀬田川に沿って下って行くと、信仰の山として知られる焼つかの山がある。岩間山、立木山もその一つで、岩間山は西国三十三カ所の第12番札所、立木山はやく除けて有名な立木観音として親しまれている。
岩間山は頂上まで車道が通じているので、車で登ってくる人ばかりである。それだけに巡礼道は人に出会うこともあまりなく、静かな山歩きを楽しめる。
私達は内畑に車を置いて、内畑からの山道を登路として使った。内畑へはバスの場合、JRの石山駅から内畑行きがある。
内畑は岩間山から南へ延びる尾根の斜面に、へばりつくように家がかたまっている。そし

て、宇治川へ流れ込む小さな谷間の段丘に田んぼが続いている。内畑は何度か歩いているが、以前、岩間山から鞍馬に降りて内畑へ入ってきたことがあったが、その途中、小さな木に鎌子がぶらさげているのを見かけた。これは山の神の信仰の習俗のようで、その年の初めての山仕事するときの行事の一つらしい。また内畑の神社の前の大木に太いしめなわがはってあったが、この大木が神のより代となる御神体なのだろう。
瀬田川沿いの山々は、古くは多くの植人が活動したところで、藤原宮や東大寺の造営の木を伐り出していた。その集積地であったのが石山寺だが、その石山寺の寺領として波多荘が存在していたので、この内畑の歴史もか



なり古いものと思われる。
岩間山への登りは、集落内のある一軒の家の橋手から続いており、この道へ入ってすぐ石仏がある。道は竹藪をぬけ細い落葉樹の林の中を急な登りが続いている。あまり人が通らないよう、意外と道は荒れている。この道は上醍醐寺から岩間山、石山寺へと続く巡礼道からははずれているが、立木観音へと歩く人達の道としても使われていたのだろうか。

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|---------------|--------------|
| *1 北アルプス絶頂 | *34 飯倉山 |
| *2 白馬岳 | *35 朝日・出羽三山 |
| *3 蔵王権・黒船湖 | *36 烏帽子山 |
| *4 霧ヶ峰 | *37 蔵王・白根山 |
| *5 上高地・穂・穂高 | *38 蔵王・早池峰 |
| *6 奥秩父 | *39 八幡平・千手山 |
| *7 酒田 | *40 十和田湖・中津湖 |
| *8 伊豆箱根 | *41 ニセコ・羊蹄山 |
| *9 木曽駒・空木岳 | *42 大雪山・十勝岳 |
| *10 甲斐駒・北岳 | *43 白山 |
| *11 奥美濃・赤石・原岳 | *44 霧山・伊吹・奥原 |
| *12 妙高・戸隠 | *45 碓氷峠・碓氷谷 |
| *13 赤野原・草津 | *46 比叡山系 |
| *14 新井沢・渡鶴 | *47 京町山1 |
| *15 西上州・妙懸 | *48 京町山2 |
| *16 赤ヶ原・霧ヶ峰 | *49 京町山3 |
| *17 八ヶ岳・翠科 | *50 北穂の山々 |
| *18 富士・富士五湖 | *51 六甲・摩耶・石馬 |
| *19 神威 | *52 霧ヶ峰・二上山 |
| *20 伊豆 | *53 並木山・岩手山 |
| *21 丹波 | *54 紀伊高原 |
| *22 高尾・陣馬 | *55 奥美濃 |
| *23 大宮・陣馬 | *56 大蔵山系 |
| *24 奥多摩 | *57 大谷ヶ原・大谷峠 |
| *25 奥武蔵・秩父 | *58 赤田・奥武蔵高原 |
| *26 奥秩父1 | *59 水ノ山 |
| *27 奥秩父2 | *60 大山・保山高原 |
| *28 谷川岳・奥秩父 | *61 四国山系 |
| *29 碓氷三山 | *62 石碓山 |
| *30 尾瀬 | *63 瀬田の山々 |
| *31 日光 | *64 九蔵・阿蘇 |
| *32 藤沢・奥秩父 | *65 瀬田・飯 |
| *33 奥秩父・奥秩父 | *66 奥久慈 |

(※山岳地図の地図です)

昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年更新されています。この冊子には最新の地図を使用させていただきます。昭文社の「山と高原地図」へのご購入、ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。またお問い合わせ先をお知らせいただけます。

株式会社 **昭文社**

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 〒102
電話03(3262)2141(代)

支社 大阪府淀川区西中島6-11-28 〒532
電話06(303)5721(代)

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



いそだるうか。子供達と登ってきた山はこんな山が多い。さき程の岩間山、そして長命寺山、朝霧山、どの山も原始の神と新米の仏教とが習合した山である。立木山の由来も弘法大師が空を立木のまま彫刻し、彫り上げた聖徳太子菩薩をお堂に安置したという。岩間山にも立木を彫刻したという伝えがある。こうした立木信仰は仏教以前の原始の自然信仰が脈流にあるのだから。

本堂のすぐ上の奥の陰から一歩奥へ踏み出すと、人の声も途切れ静かな山中となる。踏み跡を追って登るとすぐ横線に出る。そこはテレビの共同受信アンテナがあり、三角状の

山岳寺院から、はるかに白雲いたく越の白山を望見したとき、観音浄土として仰ぎみたのではないだろうか。

京都の笠取への巡礼者は内畑からの道とは違い、よく踏まれている。小さな暗い谷間から尾根にのると、右手に畑田が谷に向かって明るく広がっていた。路傍の石の仏像に手を合わせつつのんびりと下ったが、ここでも一人の人も出会わず車道に出た。この車道を30分歩いて内畑に戻った。

今日の私達のもう一つの山の上のお寺参りは立木山である。外畑の白洲不動堂を走り出した。内畑から歩けば1時間余りたろう。立木山の表参道は鹿跡から真つ直ぐに登る石段の道だが、この白洲不動からの道は人に知られていない。静かな山歩きが楽しめる。もっとも山歩きといっても、片道ただか30分程度の散歩程度の道のりだ。

不動堂の横の谷沿いに小道があり、これに沿ってすぐに右の尾根への登りにかかる。立木山と書かれた木の道標もあり、よく踏まれている。小さな尾根通りで、樟と雑木の林で気持ちの良い散歩道である。30分たらずで杉の大木のおおう暗い林に変わると、本堂はもうそこである。本堂でお詣りし手を合わせ、子供達も手を合わせているが、何をおがんで

尾根通しの道は右の谷へ降りて流れを渡る。再び急な登りとなり小さな尾根に乗ったが、岩間寺に出るまで急な登りが続いた。道は桐林の中で展望はまったく見えない。内畑から30分歩くと人の声が聞こえだし、岩間寺の境内にとびだした。ほとんどが車で来ている人なので、意外なところから人が登ってきたのによくわし、げんを顔の人もいる。車による巡礼では、巡礼道も点から点への通過路でしかなく、昔の巡礼のようにその土地を記憶することもなく、人のコミュニティも少ない。納経団募集のスタンプラリーとなった現代の巡礼では、巡礼の意味は失われてしまっている。

途切れることなく人がつづくお堂にお参りし頂上に向かう。車道を10分たらず歩くと、アンテナとコンクリートの観音像が荒地の



岩間山巡礼道の石仏

ように伐り開かれた頂上に並んでいた。伐り開かれて北側の展望が大きく開けて眺めはよいが、頂上らしい落ち着き感がなかった。

岩間寺に戻り、上醍醐寺からの巡礼道を下ることにした。

この岩間寺は、白山を開山した泰澄の祖基と伝えられている。近江には泰澄の開基または泰澄の伝説を伝える寺院は多い。そのほとんどは湖北地方にかたまっているが、湖南にもこの岩間寺や、信楽の朝宮にまつてあった仙道寺、また山城の鷲ヶ山金胎寺などがある。湖北に多いというのは、泰澄の伝えた越前の白山信仰が近江の湖北地方までおよび、その影響下にあったと考えられる。岩間寺は元正天皇の御願によって泰澄が建立したという寺伝があるが、泰澄は大正元年(1912)に筑紫国筑前府に任じられており、元正天皇の清和天皇の祈りを捧げるため奈良にも招かれていた。白山信仰は天台や真言の勢力と積極的に結びついており、湖北の泰澄開基の寺で、のちにすたれて信教大師が再興したという伝えが多く残されていることでもわかる。

しかし、泰澄の白山信仰は官府的な僧侶や貴族とは関係なく、白山を仰いできた人達のもっとも原始的な素朴な信仰であり、畿内ではそれほど盛んでなかった。湖北の人達は湖北の

山岳寺院から、はるかに白雲いたく越の白山を望見したとき、観音浄土として仰ぎみたのではないだろうか。

京都の笠取への巡礼者は内畑からの道とは違い、よく踏まれている。小さな暗い谷間から尾根にのると、右手に畑田が谷に向かって明るく広がっていた。路傍の石の仏像に手を合わせつつのんびりと下ったが、ここでも一人の人も出会わず車道に出た。この車道を30分歩いて内畑に戻った。

今日の私達のもう一つの山の上のお寺参りは立木山である。外畑の白洲不動堂を走り出した。内畑から歩けば1時間余りたろう。立木山の表参道は鹿跡から真つ直ぐに登る石段の道だが、この白洲不動からの道は人に知られていない。静かな山歩きが楽しめる。もっとも山歩きといっても、片道ただか30分程度の散歩程度の道のりだ。

不動堂の横の谷沿いに小道があり、これに沿ってすぐに右の尾根への登りにかかる。立木山と書かれた木の道標もあり、よく踏まれている。小さな尾根通りで、樟と雑木の林で気持ちの良い散歩道である。30分たらずで杉の大木のおおう暗い林に変わると、本堂はもうそこである。本堂でお詣りし手を合わせ、子供達も手を合わせているが、何をおがんで

カラマツの森林公園から

駒ヶ岳(寺山)

遊津米男

若狭

カラマツ林



昨年4月に若狭の多田ヶ岳(三等三角点712.6)に登山した折に、真つ正面に三角錐の雄姿のよい駒ヶ岳(寺山)をみたが、今回この山へのマイカー登山が実現した。

今朝は梅雨の最中とは思えない山行日和の好天に恵まれ、参加12名が3台のマイカーに分乗して京都を後にする。八潮大原を抜け、途中峠越えも難なく通過し、安曇川沿いに敦賀街道を北上する。1時間走って朽木村の公園広場でトイレ休憩。さらに登山口めざして快走する。太公望が大絶叫り米を垂れられている。私ら素人の考えではどうも粘りも、釣り人のほうがはるかに多いように思われる。厚板から若狭街道(303号線)へ左折し、上中町信用東郷に入る。

ここには、鉱泉湯の湧かし温泉郷「河内鉱泉温泉郷」がある。早来リーダー、山行後の入湯・休憩を交渉されるが一人当たり2500円とのこととびつくり仰天する。あと1000円も追加したら、この近く三方五湖の「組屋養生」で美味しいビーフステーキ(定場・銀紙スエヒロ西宮)が温泉付きで食べられるので、交渉の余地なく、一踏駒ヶ岳登山口のキャンプ場森林公園へと出発する。整備された天竺葉の林道をジグザグに登ってゆく。植林帯からブナの樹林帯に入り、サンサンと傾く緑の中を徐々に上り道を探いで、パッと開けた明るい標高480mの駒ヶ岳の森林公園に到着した。京都から約2時間かかった。

ここから登山山スタイルで登山小屋のおこころに朝の挨拶をして出発する。森林公園の緩やかな坂道の遊歩道をゆっくりと登る。中園には新緑の植物の小径が建っている。中でも奥園の山々ではあまり見られない針葉カラマツの植林帯は珍しく素晴らしい。その光で新緑の一群を見る。我々のほうが人数が多いので、狭のほうが即座に空を占す。およそ30分ほどの森林公園遊歩道で林道終点になる。駒ヶ岳への登山採取口からも緩やかな山道をブナやカエデの樹林の中を進む。このルートは晩秋のシーズンも紅葉が美しい。私たちが登らせてくれるであろう。樹林帯を抜けると梅香ツツジ、雄鶏花の群生地帯に突入する。初夏の花に趣意を添える。いよいよこの辺りから江沼尾根に接する気配だ。山道に沿って山菜ヤマブキが足の踏み場もないほどに群生している。女性はこの

山菜類みじばし歌中となり、ヤマブキを背負っての登山となる。

ブナ樹林帯の江沼尾根根の明神谷への分岐点に着く。三叉路に立派な道標が建っている。北西方向に駒ヶ岳、西方向に明神谷とある。リーダーの指示に従い、全道三叉路にリョックをデポして登山道で駒ヶ岳へ向かう。跡み跡はしっかりしている。10分ほど小浜山の会の道標が建つ、駒ヶ岳(寺山)の第一角点780・1の山頂に着いた。全道三叉路にクツキして喜びを分かち合う。周辺はブッシュに覆われて、小浜方面の若狭・多田ヶ岳は望めない。もちろん日本海も見えないが、た



だ東方は一部展望が開けて遠くなすかに琵琶湖を望むと同時に湖北の三ノ間山の雄姿をクツキと望む。眼下には我々がマイカーで登ってきた信用東郷からのジグザグの林道が垣間見しに見える。山頂で東北を急降後三又路のデポ地に戻り、遊歩道の明神谷方向へ戻って、古江副生林のブナ林の緩い江沼尾根を横を歩み明る。小広場のところで昼食となる。樹上に緑映える、樹齢数百年のブナの樹の下での食事には、ツツジと雄鶏でコーシャス安曇園別荘の、ゆづくりとした団扇のひとときもアットという間に終わる。ここでも同じくリュックをデポして、手ぶらで最後の散策をかたてブナ原生林の深根を明神谷方向へ進んで、快道遊歩道へと歩く。足はブッシュが生え込んでいて、リーダー愛用の杖で連やかに刻んで頂を展望が開ける。

中登って来たコースを順当に引き返す。途中カエデやカラマツの森林の中を通り抜けて森林公園の駐車場に予定通り到着。管理休憩小屋でシャワーを浴び、冷たい缶ビールで乾杯し今日の楽しい山行を散談し、晩秋の駒ヶ岳への再登と素晴らしい雄姿を眺めながら見せつけられた百目ヶ岳への山行談話を花を添えて、森林公園を16時半に出発し遊歩道に就いた。

平成2年6月17日歩く

▲参考タイム▼北大嶺頂上8:00 | 朽木村公園駐車場9:00 | 森林公園広場9:30 | 10:00 | 林道終点10:30 | 10:50 | 明神谷分岐11:30 | 駒ヶ岳11:40 | 明神谷分岐11:55 | ブナ林小広場12:05 | 温泉・温泉前散策13:35 | 森林公園広場15:30 | 16:30 | 帰路に就く。

▲地形図▼2万5千—熊川—彦根—十原



野外塾

●山菜・野草料理

関西アウトドアースクール
校長 二名 良日

一週間の単位で、花が散り、新緑の萌黄が濃くたくましく変化して、スグジイのある森では、黄色いモコモコとした花の盛り上がり、絵の具を塗ったような立体感を見せてくれます。

山奥では、すでに盛りを過ぎた感がありませんが、登山・ハイキングで分け落ちる山や谷間では、初夏の頃まで山菜や食野草がまだ潤々しく、旬のうまさを残してくれています。

フレイムハウスの栽培促成栽培のモヤシ野菜とは比べものにならない、自然の香りと野性のエネルギーがいつばいの山菜・食野草ウォッチングをしながら、料理メニュー別に整理をして、採集可能なホリニームや根菜類のものについては、必要最小限をいただいて、昼食や酒の肴に「食べる」形で、味覚の雨からも自然についての理解を深めましょう。

- ①飯
①ウソウソ・ミツバアケビ・ヤマウコギなどの新芽を木芽飯に。ピリツとしたフサビ菜などを菜飯に。ツクシなどを炊きこみ飯に。
- ②粥
②セリ・ナズナ・ホトケノザなどを。
- ③パン
③香りの強いコモギの若葉などを、硬目に練ったホットケーキミックスにまぜ、細杖に伸ばす。

ばし木枝に巻きつけ、おき火で焼く。

④お好み焼

④クサソナツなど、ホリニームがあつて色のよい素材を山菜お好み焼風に。

⑤うどん

⑤サンショウの若葉・ハツカのカキ菜などを手打うどんにもみ込み、ハーブうどんに。

⑥薬味

⑥フサビ・サンショウ・ミツバ・ヤブミョウダ・セリ・アサツキ・ヤマウコギなど。

⑦餅

⑦カンワ・サルトリイバラ・ヤダケなどの葉で、コモギ餅などを包み蒸す。

⑧汁

⑧ハナイカダ・ヤマウコギ・ミツバなどの新芽や、クサソテツの若葉、シエンラン・カタクリの花などを、吸い物や味噌汁に。

⑨でんぶら

⑨タラノキの新芽・ニワトコの花芽・ハコベの新芽・スミレの全草などをうす炊で。

⑩おひたし

⑩オオバギボウシの葉茎・オオバコの新芽・スカシタゴボウの若葉などを味噌で。

⑪ぬた

⑪ウドの新芽・ノビルの葉根・ノカンゾウの花茎・ギョウジャニンニクの新芽など。

⑫しほあえ

⑫シメツの若芽・イヌガラシの新芽・モミジガサの新芽・ハリギリの若芽など。

⑬辛子味噌あえ

⑬トリアシシヨウマの新芽・サルナシの新芽・ヤブガラシの新芽など。

⑭漬物あえ

⑭ナルコユリの新芽・アマドコロの新芽・サルトリイバラの若芽・ユキザサの新芽。

⑮マヨネーズあえ

⑮ウハバミソウの茎・ミヤマイラクサの若芽・キシギシの新芽・ゴマナの新芽など。

⑯酢の物

⑯シエンランの花茎・イワガラミの新芽・ハマボウフウの若芽・ノカンゾウの花など。

⑰サラダ

⑰オランダガラシ・オカヒジキ・セイヨウウツクソバの若葉などを、ドレッシングで。

⑱ステイック

⑱スイバの若葉・イタドリの新芽・ヤブミョウダの若葉・ウドの若葉などを、丸焼き。

⑳バター炒め

⑳カタクリの花茎・アケビの若葉・レンゲの花茎・ハリギリの若葉などを、色よく。

㉑まよとじ

㉑カラスノエンドウの若芽やカボトクシ

のハカマを取った茎などの、二三焼き。

⑳菜つけ

⑳フタバの若葉・ゼンマイの若芽・ヤブガラシの新芽・ハンゴンソウの若芽など。

㉑キンピラ

㉑セイヨウウツクソバ・モリアザミの根。

㉒田菜

㉒キクイモ・ヤマノイモの地下茎。

㉓芥川

㉓ハコベの葉茎・カキドワシの葉茎・クワの若葉・セイヨウウツクソバの若葉など。

㉔スープ

㉔クコ・ヒルガオの若葉やカボタージュ。

㉕花

㉕フジ・スミレ・レンゲ・ツツジのゼリー。

㉖実

㉖ヤマモモ・モミジイチゴ・ヤマゲタなどの実のデザート生食や、ジャム作り。

㉗酒

㉗ナワシログミ・コウゾの木の果実酒。

㉘茶

㉘タマザサ・カキ・フジ・アキグミの葉を。

㉙コーヒー

㉙セイヨウウツクソバの根を焙煎させて。

※注意※ 専門家、経験者、現地の方などから直接教わるのが鉄則です。厳守しましょう。

お知らせ

◎「関西アウトドアースクール」予定

7月 ナイフ・クラフト

8月 ラント・キャンピング

◎ 早稲山登山・キャンプ

◎ 吉野・大釜山グリーン・キャンプ

◎ 無人島サバイバル・キャンプ

今春より好評のうちにスタートした「関西アウトドアースクール」では、黒檜山の「奈良フィールドアスレチック」をベースに、右のような夏プログラムを準備中です。

◎「森へはな」ビデオ発売

VOL.1、夏のアウトドア料理入門

VOL.2、葉をまがそう

VOL.3、秋の山野草・木の葉入門

VOL.4、森の宝石・キノコ入門

「野外塾」を担当中の「関西アウトドアースクール」二名良日校長が、朝日新聞社より自然入門ビデオ・シリーズを発売しました。

お問い合わせ

スクール 電話06(531)1810

「自然塾」〒550大阪市西区西木町2

1-5-19ニニオカザキビル4F

ビデオ 電話06(355)2710

「サンクラフト」〒530大阪府北区紅梅

町1-14カサヒアンカB

せんがら
千刈水源池をめぐる

羽束山・布見ヶ岳・大岩岳

北撮

安田憲弘

香下から望む羽束山



桶川水道千刈水源池は、格好のハイキングコースとなるなど、市民に憩いの場を提供している。水源池を取り巻く山々も、「何時かは登ってみよう」と考えていた。左岸の布見ヶ岳と大岩岳は、多田繁次氏によって紹介されているが、めったに人の登らぬ静かな山々である。「ひょうご低山遊歴・なつかしの山やま」神戸新聞社出版センター、1990年。

羽束山

羽束山は、千刈水源池に注ぐ羽束川の右岸に位置する。標高524m。三角錐形の整った山容で、古い時代から「神体山」として崇

拝されてきたものと考えられる。山頂には若王子神社（羽束神社）や祇園堂が祭られてい

る。山麓には香下寺。この寺は、三田城の東門（北窓）にあり、鬼門守護の祈願所となっていたという。

香下寺は南側の倉下。および、北側の木密の集落から通じている。バス便も利用できるが、今回は時間の都合で、三田駅から香下までタクシーを使用した。

ただれば、20分ほどで5000・5000のピークに達する。3等三角錐標が、ぼつんとあるだけの静かな山頂だ。

布見ヶ岳

香下から東の南へ約1kmまで、バス道を歩いた。途中、波豆八幡神社で昼食休憩とする。波豆八幡神社は、多田繁次が天延年間（10世紀）に建立したと伝えられる古社だ。千刈水源池をつくるとき、幸いに水汲をまぬがれた。これらぶきの本殿（応永10年（1403）の墨掛銘あり）は、重要文化財となっていて保護のための覆い屋根ですっぽりと覆われている。その他、応永32年（1425）の銘の石鳥居、寛政5年（1323）の銘の板橋など、歴史を物語るものが多い。



さて、道之筋橋のたもと、宝塚市自然休養村（千刈集落の南）から南へ谷間の道をたどる。谷の小径は、いつしか消えてしまった。とにかく目前の風景標を目標として、急な斜面をよじ登る。尾根にでると、しつかりした踏み跡があった。南へ少したどると布見ヶ岳の山頂に達する。4等三角点（366m）あり。北西に裾野が開けるだけの、樹林の中の山頂だ。くだりは、さらに南へわずかに尾根をたどり、鞍部から右手の谷間に下降を試みる。かつての道筋らしい痕跡はあるのだが、今はすっかり荒れている。しかし、とにかく西へくだれば、確実に水源池の左岸の小径に行き当たる。

大岩岳

油群のしつかりした小径にたどり着くと、ほつとして、ゆつたりした気分で歩ける。歩くことに変わって、貯水池の端を歩しみながら南へたどる。対岸の山の稜が突き出し、それに対応してこちらの入江が大きく流入する所を見逃さな

なかなかの急坂である。六町目の時には石地蔵が置かれている。ここから道は緩やかになり羽束山山頂へと導かれる。

山頂の南側、少しくだった所に墓所所。有馬富士（374m）なども見下ろせる好展望台だ。北側には、観音堂。これが香下寺の本堂とのこと。

下山路はお盆の手前から左の道へ。急坂をくだれば、すぐに鞍部に出る。ここから南の香下寺への谷道をたどり、元の登山口まで戻った。（前記の鞍部から西へ、尾根の踏み跡を

いようとしよう。その最盛期が大岩岳への分岐点。ここから直滑する数分を見送って、大岩岳への登りにかかると、意外にしつかりした登山路だ。急登だが、道なりにたどれば、容易に山頂に達する。

「低山（384・383m）ながらも、さすがに2等三角点の山だ」という感じ。眼下に水源池の光景が広がり、北には、先ほど登ってきた羽束山。その他、丹波・播磨の山々を見渡せる。

くだりは南東の神戸市・宝塚市の境界線をとたどる。谷へくだれば、道を右手にとり、緩やかな道をくだる。ほどなく千刈ダム。梅雨期で清水のダムからは、すさまじい水量の水が放出されている。水煙りを浴びながら、今日一日の山行の疲労感をゆつくりと味わう。ここから、J&R道標頭へは、もう近い。

（昭和60年4月28日・羽束山、平成3年7月6日・三山を歩く）

- （ハコースタイム）
- 香下寺山口（15分）香下寺（50分）羽束山（20分）鞍部（30分）香下登山口（40分）湯之瀬橋（50分）右見ヶ岳（30分）千刈水源池左岸（30分）大岩岳への分岐点（30分）大岩岳（40分）千刈集落（40分）J&R道標頭
- （地形図）2万5千・木津・武田図

島根半島の一等三角点

朝日山と鼻高山

多摩雪雄

出雲

鼻高山頂の一行



美保ノ関の大雷雨
大社造りの神威が、二つ並んだ美保神社は、出雲の大匠手命から、国譲りの相談をうけた事代主命（えびす）を右殿に、左殿には、山雲風土記に「細穂須美命がここに鎮座されているので美保といふ」とある。三種神姫命を祀り、龍虎繁城、遊業、海上安全の神として、全国の船乗り信仰が厚く、運船御用本（おかけの水）には上家を掛け、船庫には諸手船とそりこ船が懸架されていて、宝物館には珍しい楽器が多く展示されている。

渡き渡る勇壮な祭り、毎年12月3日に行われる。
美保ノ関は、神社の門前町として栄え、裏通りとなった古石畳の道の両側は、往時の色街の風情を今に残している。
遊覧船乗り場に出ると、灯台の役目をしてゐる石造の、高層塔が見え、朱塗りの本橋で、小公園風になっている小島の、弁天社に詣でると、港の正面に大山が、大きく輝いているが、大きな縮景が頭頂部を覆いつつている。
8時始業の五本松公園リフトで、遊歩道に入ると、二代目関ノ五本松は、枯枝を張った醜い初代の残りの一本の対面にあるが、平成2年9月の19号台風で根こそぎとなり、三代目

が植えられる。
頂上の大広場には、壊れた平和記念塔や休憩舎があり、四周の眺望はいい。島根半島の生いたちを愛むと「大台に八束水臣神姫命が、三輝山と大山を抗にして、他の国から島根半島を引き寄せ、その時の綱が、出雲の瀬の長浜と弓ヶ浜になった」と、いう、有名な国引き神話が記されている。
地図上の破線道を、北から東に迫る山頂遊



歩道は、広場から見晴らしのいい島根近を、ゆつくり下った時に15分程度で、今、下つて来た山と正境と、此処から東に下る仏谷寺へは、それぞれ500m、北へ下る才へは600m、美保関灯台へ2600mとあり、これより樹林中の小道となるが、しっかりとおり、丸太段の登りで、ベンチのある島根山に着くが、その手前には三等三角点（高松宮、美保ノ関、俗称・馬場山）167・277m、五本松公園の西側ベンチの前には、4等三角点（高松宮・五本松）133・166mと長に延長してしまつた。
僅か先に、立派な休憩舎があり、日陰には



GAIA

キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48ℓ 赤札 ¥3,000

アリゾナ35ℓ // ¥6,800

GAIA-JAPAN

ヨミスポーツ

〒543 大阪市天王寺区南町場4-70

TEL06(772)7231

FAX.06(779)2191

特長

- ① パラレル、インナーフレーム付
- ② スーパーウエストベルト付



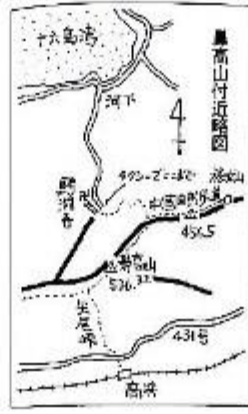


山陰屈指の多利・仏谷守は、山陰最古・平安初期の大徳仏五体（大正9年四重、昭和25年重文）は、薬師如来と、日光・月光・虚空蔵・聖観音四菩薩を安置し、数度に亘る兵火により、七重蓮座すべて焼失したが、五体の真鍮仏（859×875、空海・昌泰・仁徳の時代）、鎌を掛けて今日に至っている。また、後醍醐・後醍醐西天皇が隠岐へ配流のときの行在所跡には、本堂が建立されている。

山門前の吉成蔵は、八百屋お七の寓居を折って、誓願を造りした吉成が、比喩で生涯をおえた。と、伝えられている。

昨夜の民宿、太田荘は、この地の旧家で、美穂神社の祭礼を指揮する四人の当屋のひとつで、この年の年番であった。

12時のバスを井に出て昼食後、約10分前刻を通過して、航空自衛隊高尾山分



窟が得られ、密集した温泉の町並みや、白く伸びた鐘楼から手結の島々までが、小さく散在し、一筋太く深なった積層雲の影を、紫色に映した日本海が、果しなく見渡せ、天空との接点に、松枝がかすかに見えている。南は、中海から松江、天室湖と開閉し、一回は、しばし見を松江で見つめていた。

1等三角点標石は、絶壁に刻まれた荒地から15枚標石を出していたが、東南角を大きく欠かれています。残念であった。

裏に、10分位離れて天淵点があり、南一段下には本願舎がある。

本堂前を南へ300m程ほど、歩きよく下たつて、駐在所となつている林道終点から、簡易舗装路を、舞水の金剛寺を過ぎて、長江川に架かっているのは、寺を後にしてから1時間10分後の、10時25分であった。

平田市駅横のスーパーで、昼食弁当を注文入れてから、予約してあるジャンボタクシーで、僅か30分、磯部寺に到着し、コンクリート造の、遊覧館と名づく広い休憩舎があり、和室利用以外は無料で、常駐の中年婦人が、土産品や土産を兼ねた管理人で、予約すれば食事も出来る。と、いう。温泉の接待を受けて昼食を済ませ、参拝に出掛ける。

百数十段登った出願の広場正前に、毛利陣

屯基地司令と逢い、日蓮長の先導で、左書きの新設1等三角点標石、粗削りの中対面する。昭和60年7月17日更新した標石である。

晴大時には、朝鮮半島まで見渡せる。とのことであった。

群馬県の高尾山系の子として生れた田山花袋は、明治末期の小説家であり、また、旅行作家としても著名である。彼は、高尾山北海岸の法田から留置で、この山頂に登った。と、伝えられている。

高尾山の3等三角点にも、案内して貰って、運よく、雲が切れて、七瀬から九瀬や、片江の半島、反対側の遊歩や岩ヶ浜が姿を現わした。

H哥長は、隊に寄らず、運転の下士に命ずると、予約してある日交タクシーに、我々を下ろしてくれられた。

朝日山と高尾山

字井からのタクシーは50分で、東急の交番に到着した。

鷹島町後場に問い合わせると、宿は一軒きり、だと言ったので、期待していなかったが、大きな宿であった。漁師が本業で、新鮮な海鮮が食べきれない程であった。

昨日は50人もの宴会であったが今日は、我

元が再建した根本中堂は荘厳であり、左手の摩訶羅刹社は黒形神で、旅の安全を司る。

また、おみくじの創始者元三大師を祀る常行堂や、慈覚大師千歳の二百杉がある。

万寿3年（1183）、路の梵道と積道堂前から高尾を下つて一流し、御成門を有する権成寺の本坊を訪う。

慈覚大師作と伝わる、本尊三手観世音と蘇師如来は、三十二年毎開扉の秘仏で、次は2015年である。

浮世流の感嘆より湧出する龍眼水で、女帝推古の眼疾を癒したので、推古9年（594）勸願寺となり、開創千四百年祭が挙行される。

12時45分、磯部寺川に架る目前の大橋橋を渡つて、下流へ向かい、仁王門を潜った先で、中国遊歩道・旅伏山への指道標で、支那谷池に入る。すぐ八百屋お七の碑を過ぎて、山道を東に、ゆっくりに登って行く。

遊覧館から丁度1時間、郡市界の時に出る。二十分ほど10分休んでから、僅か5分であった。

旅伏山への中国自然歩道を左にして、右へ登って行く。三ツ目のコブの急登は、それこそ必死の思いであった。

小高い標地の高尾山は勸願寺で、530.0.3.2の1等三角点標石は、粗削りの基部も現

我だけの詩かな一夜が明けた。

民宿、どしむら。の庭園に見える朝日山の一連を指差して、登路を説明するポリウムあるおかみに手を振ると、交番前（地図の位置と異なり佐田橋の南側）から、小栗池沿の駐船場となつている佐田（佐田）川沿いに、古浦の海岸に出る。

現谷からの破線の道は虎道となり、西の島尻部寄の分岐の先の、堂主の中の地蔵の前に、朝日寺へ1・4の立派な注連縄があった。

民家の橋手から始まる中国自然歩道は、丸太段30段で、木洞の中の子安成威を拜する。脇に十数本の杖が用器してある。7時15分、成相寺道に合する迄、草に覆われているが、道はしっかりと続き、なだらかに登って行く。

西ノ峰への分岐からは、上段に葦叢、下段には地蔵の、二段の石塔が連なつて、宿を出てから1時間30分、朝日寺に8時20分と着いた。

山中の広い境内に本堂と庫裡、15坪の真新しい休憩舎は、土足の中間下を築んで、両側は高床敷敷きとなつており、緑茶の他に、コーヒー一式がサービスされていて、暖で、品良い中年の梵妻が、漬物と梅干を山盛り振舞ってくれた。本尊十一面観世音、真言宗。一服してから東ノ峰に登ると、ひらけた風

わに、地表に突出しているが、東南面が一丈所々落ちており、標石には雲霧が感しられる。霧の無い暑い頂上に、30分の余も滞在したのは、今の急登の喘ぎを、静めるためばかりではないようであった。

頂上から5分の、天王山神社遊路を見送つて、矢野寺から南へ降り、一畑電鉄大社線の高尾駅には、11時30分に着いた。

平成2年6月17日（18日歩く）

△コースタイム△略（文中を参照）
△地形図△2万5千1:5万保岡・東豊・秋鹿・平田・出雲市・大社

世界の地図が揃う
地図専門店
マップラン

- 地形図 ●海外地図
- 古地図 ●道路地図
- ガイドブック

京都河原町通、ロイヤルホテル前
TEL・FAX 025225446

京都北山 (五) 安曇川源流・八丁平・久多周辺の山

涼を求めて、北山の溪谷美を歩く

北川 裕久

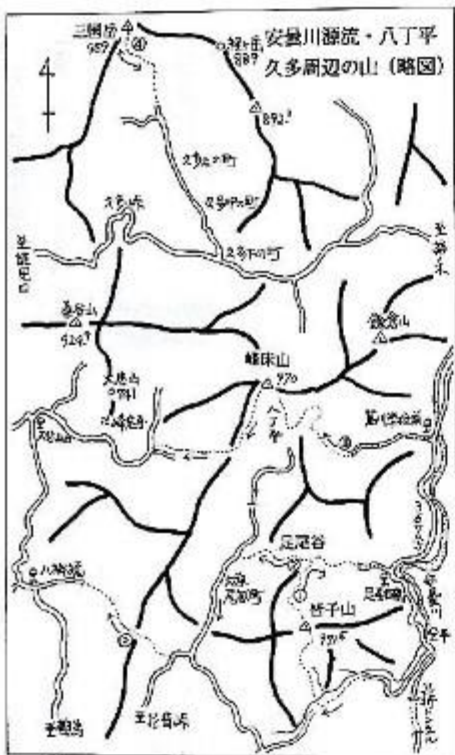
避暑地ともなると北山である北山は数連されがちな山城となる。草いされの激しい谷沿いには、くもの奥が張りめぐらされ歩けたものではないし、オプへ突入すると身動きがとれなくなる程にまで並や雑草が生え出す。夏といえは決して安曇川源流の溪谷沿いのコースを取り上げている。

安曇川は琵琶湖に注ぐ長大な河川でその上流部を葛川といひ源流は大原・百井町及び大見町にまで遡る。

北山東部の全体的な特徴として上げられるのは、やはり後谷の地形であろう。葛川に沿って花折断崖が南北に走り、北山山系の西側にある急峻な溪谷(深谷・等)を見てわかると、東部の溪谷は断崖谷として形成され

たとえられる。従って、安曇川水系の山々は北山でも特に高い峰が集中していると云える。この山城を代表する山として、京都左下最高峰の皆子山がある。全宇登山道は谷道が取られているため、急な溪谷をもつ険しい山である。ルートとしては、大原小出石から百井・ヒノコを經由して皆子山から登るルート。国道367号線を途中から梅ノ木方面へ花折トンネルを抜けて平町から寺谷を廻るルート。そして最も急峻なルートは、葛川沿いの尻尾谷口から、ツボクリ谷を經由するルートである。何れも、すばらしい溪谷美で、特に足尾谷の紅葉期は、北山一とまで言われるくらい美しい景観を見せてくれる。又、山頂からの展望はすくなく、比良方面が展開する。と

つれとした山容、美しい溪谷、そして展望と、これを取っても下流最高峰の魅力十分な山である。さて、安曇川源流にあたる大原大見町について少し紹介しよう。標高600m以上の高所にある大見町は昭和32年、京都市に編入されたが、木盛遊歩の減少により林業は衰退した。人口10名たらずの大見町のカヤ原にはハンノキ林があり、ヒメスモクシヤやヒサマツドリシジミ等の貴重な動物や昆虫が確認されている。近年、大見町に安曇川自然公園開発の計画が出され、市の土地買収が始まっているが自然保護団体等が立木トラスの森と称して、原木一本一本を個人所有物として名札を掛け大見の土地を守ろうと立ち上がり続けている。さて、大見町を後に尾越町へと向かう。これも遊原状の地形で数軒の民家が並び、足尾谷の入口を通ぎるとまもなくフノ板の分岐で、少し先の山の家の所で車は通行止となるが林道は八丁平まで続いていく。徒歩ならばフノ板を終田してフジ谷峠から八丁平へ入る方が早い。この林道は京都市が久多から大見へ抜ける林道として北部開発の目的で工事が進められたが各自然団体等の反対もあつて当初の計画から林道のルートも変わった。しかし今は、八丁平の南側でストップしているも



の何れも久多の大原谷林道からオグロ坂峠を經由して開通するに違いないと思う。八丁平は京都市左京区に属し、標高900mほどの高所にある向原温泉地で、内部にはシロウブやイヌツゲが群生し、アカマンやハンノキが点在する北山の極地である。今では湖原の周囲に遊歩道ができて休用のベンチや遊歩も整備され、遊歩とは呼びがなくなつたが、四季折々の美しきは格別で訪れるハイカーも絶えない。本書は季節毎に地域別でコースを

組んでいるので八丁平は過ぎずに結束されているが私は、やはり晩秋(10月20日・11月10日頃)の八丁平を推奨したい。オグロ坂を越えたと久多という集落に入る。久多は京都市最北端の山里で五町からなる総人口2000名余りの雲降山山村である。近郊、キャンプ場やレジャー施設が数ヶ所に開かれ夏は親子連れやファミリーで賑わう。久多は中世、法成寺領から、大慈山峰定寺領になり、また醍醐寺三宮院領になつたりして近世は近江国朽木

氏の領となつた。京都市に編入されたのは昭和22年である。久多の志賀神社は安曇川一円の地主神で本殿、拝殿、六神天宮を祭る。大山神社を祭る山神社がある。例祭は6月19日だが、8月24日の花笠踊りが有名で、六角形のあんどん、に色紙で造つた進花を飾り、これを頭にのせて子供に合せて夜明けのまで歌って踊るもので独特な文化財に指定されている。久多東北の三軒屋をさらに北上すると岩屋谷に入る。トチの老木が立ち、ブナやミズナラの木も空を覆うほど、うっそうとした谷で、奥には三つのお稲穂(洞窟)がある。その昔ここは修験場であつた事は確かであり、途中には酒もあつて険しい既生林が今も人を拒み続けているようだ。山頂から北側は大原の原生遊歩道が、うっそうと山の深さを物語っている。又、安曇川沿いから直接登山ルートが開かれていて雄倉山や白倉山・伊賀谷山も険しい谷をもつ山である。この夏、北山東部の溪谷で涼に浸り、ピークを自覚せずとも、渓流の飛沫を体一杯浴びて北山の夏を満喫して頂きたい。

エリア別徹底研究 安曇川源流八丁平・久多周辺の山① 京都府最高峰へ 皆子山

みなこやま

京都北山



【平】バス停から安曇川沿いの道を下って行く。杉林に入り、橋を渡ると寺谷の出口に到着。この谷も皆子山へのルートにはあるが、本コースはさらに上流の皆子谷へ向かう。20分程で林道端に着き、細い急坂を安曇川岸へ下り右岸の岩場を少し越ると対岸から皆子谷が合流する。飛び石や丸太が時々対岸へ渡り易いように掛けてあるが、いつもあるとは思えないので渡渉する方が早い。谷の入り口から右岸の林道を進む。すぐに林道は尽き、谷奥へと入ってゆく。高い桐木が谷を覆いつちやフナ等が茂り、暗湿な印象を受ける。これが夏の日北山を印象づける大きな要素だと私は思う。途中、高き道に谷道が被れるがどちらをとってもよい。やがて谷から対岸右側の急斜面を登る。必ず車手は用意して頂きたい。皆子谷最大の懸崖。崖の斜面を南へ延びる尾根に乗ると、東方に霧雨降が降き、夏の涼風が難所を乗り越えた肌心地心地良い。緩やかな尾根を北へ行くと寺谷への下降点を過ぎ小高い雑木の中の小さな山頂に着く。標高971・5mの山頂は遊歩道との境界線根の頂点で、展望は樹間から比良連峰が望めるくらいで、時間に余裕があるなら寺谷の下降点まで戻り、北東へ少し下って北へ延びる下866mの尾根を途中まで往復すれば比良連峰

を一望し、皆子山の山頂をも望める一級の展望地がある。

さてツボクリ谷を下る。頂上から北へ、山原下は世の急斜面で深い溝状の道を一気に下つてゆく。やがて水量が増すとツボクリ谷に合流する。トチの大木の付近に道標も増えられている。ツボクリ谷の源流はこれから下流で、岩場が多く、溪の飛びが樹間の日差しに舞い降りる。夏の飛沫が樹間の日差しに舞い降りる。飛び石の流があり直線で暗く不気味な印象を受ける。ツボクリ谷の源流は、約1時間程度歩くと大きな谷と合流する。尾尾谷で丸木橋を対岸へ渡ると、巻き道に出合う。右に下って下方にKRA C 芦火小屋を見せるとやがて谷沿いの道となり、丸木橋や、橋板を何箇所か渡り返すと林道に出て、ここから「足尾谷」のバス停へ20分程である。

- (北山側)
 ▲コースタイム▽平バス停(約25分) 寺谷出口(約15分) 皆子谷出口(1時間40分) 皆子山(30分) ツボクリ谷出口(1時間) 足尾谷出口(1時間15分) 足尾谷(バス停)
 (地形図) 2万5千1花野
 (交通) 京都バス出町柳駅前から「梅ノ木」行 京都バス 柳子、安までシャツ、シートバスツツは必須。

エリア別徹底研究 安曇川源流・八丁平・久多周辺の山② 北山一の溪谷美 足尾谷溯行 京都北山

「尾尾谷」まで下り、尾尾谷の林道へ入ると小さな滝が流れ、その奥で林道は終点となる。丸木橋を渡り、谷沿いの道を行くと途中で木橋があり、廻り道はこれの先のツボクリ谷の出口に繋がるとなる。KRA C 芦火小屋を過ぎて約2分程は二分するの左へ、ツボクリ谷の出口にまで下り、尾尾谷の源流



丸木橋を渡らず通行準備に取りかかり、緩やかな道も尾尾谷に飛沫をあげる源流の源相となる。小さな落葉の森林でビシキ林を越え、フナの木が一本ある開けた所に出る。高き道が下りてくる地帯で杉林になってくる。この先で右から支線が入り、やり過ぎるとどどどと崖に落ち、左岸から取りつくと、まて、ここから尾尾谷までが急斜面で、この先の急斜面から右側へ渡り過ぎたがV字型の谷谷を横断する。危険なため、そのまま進行する。三日月や流木が歩かづらぬ。小さな落葉の谷と進み、前方には二級の急斜面を現わす。尾尾谷最大の急斜面は上部には巨岩が多く、渓谷は言葉だけでは言い。さらに進むと、急斜面の急斜面が二個所あってクサリ場もあるが、いつもでもあるものとは思えない。左岸から取りつき、小さな滝を渡る。左岸に平木があり、流れも穏やかに

なる。この先に岩壁の間を落ちる4級の滝があり、左岸をへつるが高き道は少し手前の急斜面洞れ谷を受け、巻き道に出る。高き道は左から取りつき、まて、ここから尾尾谷までが急斜面で、この先の急斜面から右側へ渡り過ぎたがV字型の谷谷を横断する。危険なため、そのまま進行する。三日月や流木が歩かづらぬ。小さな落葉の谷と進み、前方には二級の急斜面を現わす。尾尾谷最大の急斜面は上部には巨岩が多く、渓谷は言葉だけでは言い。さらに進むと、急斜面の急斜面が二個所あってクサリ場もあるが、いつもでもあるものとは思えない。左岸から取りつき、小さな滝を渡る。左岸に平木があり、流れも穏やかに



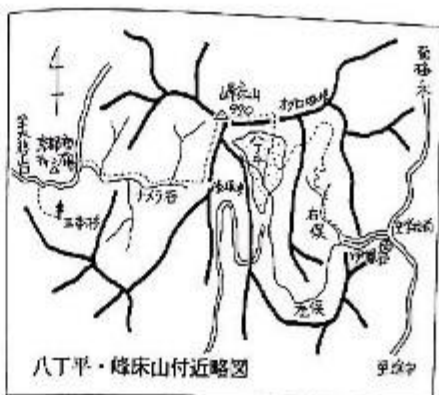
安曇川源流八丁平・久多周辺の山③

残された秘境

八丁平と

峰床山

京都北山



八丁平へのアプローチはどの方面から入っても長く急な坂や道を登らなくてはならない。中でも比較的簡単に登れるコースを紹介しよう。安曇川沿いの伊賀谷から入るコースでバスは、伊賀谷で下車する。伊賀谷も断崖絶壁の険しい谷で林道を歩いても歩けば左傾と右傾の出合いに歩く。コースは右傾へ抜けて右傾へ入るが、進行を楽しむなら左傾を登り抜いてほしい。小さな落石が岩肌をすべり、途中には滝もあって楽しい。2時間くらいで二ノ谷の林道へ出る。さて、コースは右傾へ入ると杉の雑林帯で雑木林に変わるあたりから次第に傾斜を増してくる。この先の大石のある所で谷は二分し、左の谷へ入る。すぐに流れも細くなって右側の急なガレ場付近が最後の止まり場である。急斜面を登ると緩やかに傾地厚根の南側へトラバースしてゆく。急峻の峻部を越せば八丁平の麓で、笹の茂る雑木林を下ると整備された遊歩道(遊原遊歩道)に出る。木のベンチや遊歩道も京都市によって整備されている。970mの峰床山が低い丘のように見えるが、八丁平の遊原が900mの高所にあるためだ。コースは遊原遊歩道を北へ向かう。遊原内は立入禁止であり、アカマツやヤナギ、ハンノキやイヌツゲが点在し、晩秋の頃は特に美しい。八丁平の

八丁平にて



北側には笹が茂り、緩やかな道を登るとオノロ坂峠に着く。ここには数本のアナの木が残され、秋一番に色づくのがこのブナ林である。時には整備した石仏が南側の低い所に置かれている。ともあれ峠が落ち着いた遊原の時は北山らしく、他にあまり類を見ない。峠から北東の頂上を登れば鎌倉山へ、峰床山へは西南の尾根を取りつく。ブナの木が生ずる尾根道で緩やかに登り下りをくり返すと40

分くらいで峰床山の山頂に着く。展望は北方の一部を除いて全開で、東に比叡連峰が、南に摩下最高峰の皆豆山がどっしりと雄姿を誇り、西には初智寺(4号)で紹介した忍草峰の桑谷山が見える。そして北方の断崖に三國岳から若丹園境・江若園境の山々が望みで見える。

山頂を後にクラガリ谷の裾部へ下る。尾根には白い風化木が点在し、背空とのコントラストが美しい。鞍部から南の尾根を登るとお盆に境界が開け、二ノ谷側の展望がすばらしい。二ノ谷への道を分岐すると、P8864まで東側の展望は続く。途中、電力会社の建物が山の雰囲気をおこなすが、白い風化木や変わった校舎の松は健在で、P8864を越せばすぐに依坂の峠である。笹の下生えする渾木帯の峠で、現在は峰床山の登山路のフンポイント

として存在している。西側へ下ると山腹の巻き道となり、渾木帯を下る。杉林のつづら折れを下ると谷筋の道となり、ナメラ谷林道に下りてくる。30分程歩けば谷の林道と出合い、寺谷川に沿ってしばらく行くと近衛市の大赤山キャンプ場があり、その少し下流に左側へ切り返すように入る二本杉林道がある。隙間に念珠があれば、林道を少し入った所に高さ35〜40m、1本の幹回りが約7cm、3本が合わさった樹元だ。ゆづりに切枝は見えるとちよと二本杉の老木がある。樹齢四五百年、二本の木が寄り添って、一樹三幹の今の姿になったといわれる。二本杉のある場所はかつて鎌倉寺の境内で地元の人々の信仰を集めていたらしく、今でも大木の前にはさい銭箱が用意されている。その昔、この杉に芽を入れたい人が、その時に発酵し、亡くなったという

言い伝えがあり、今では山林、建材業者等のあいだで信仰の対象となっている。さて、元の寺谷林道まで戻り、鎌倉寺の前を通って、料理館を通れば「天赤山口」のバス停まですぐである。(北山登山)

△コースタイム▽高川学校前バス停(30分)伊賀谷石(左傾)出合(1時間40分)八丁平(30分)オノロ坂峠(50分)峰床山(40分)依坂峠(1時間30分)寺谷出合(1時間)大赤山(バス停)三本杉への時間は含んでいない。(地形図)2方50〜1花押

近江朽木の山

山本 武人 著 B5判・二〇〇〇円
踏み荒らされてこない自然がこんな近くにあることを知ってもらいたい——朽木山行会
約20山グラフィックガイド地図付。

京都滋賀南部の山

新刊 内田 嘉弘 著 四六判・二〇〇〇円
木津川、宇治川、野洲川に囲まれた彌米前後の山々は、古社寺も多く、歴史をたずねての静かな山旅が待っている。ガイド地図付。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
電話部 075-751-1055 〒606

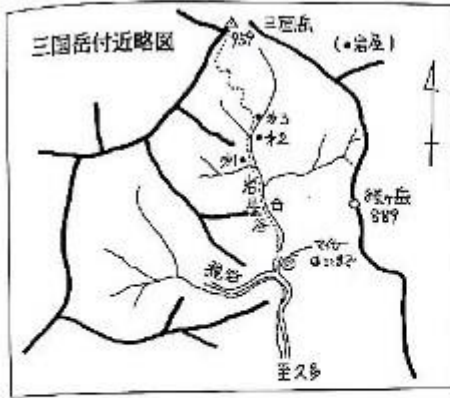
エリア別徹底研究

安曇川源流・八丁平・久多周辺の山④

原生樹林に囲まれた秘峰

三國岳

京都北山



起点の久多へは梅ノ木から入るか、八河原能見口から久多峠越えで入るかである。マイカーなら巨無り可能で岩屋谷と滝谷出合いまで入れる。

岩屋谷へ入るとすぐに鞍道峠で対岸へ渡る。トチの大木が谷の中央にあり、道も府立大学の植樹林になっているので途中、小屋もあり、山頂まで整備されている。何処も渡り返してゆくと、やがて久多谷が右側から合流するが左の本流をとる。100mほど先に大山岩があつて再び谷は二分する。右が本流で少し先の左側山腹に第1の滝淵が口を開けている。10畳ぐらいの淵内には不動明王と後ノ行者が安置され、谷にはうっそうとしたトチが茂り、護暗く冷たい霧の雰囲気が漂っている。谷沿いの道へ戻り、再び岩屋谷と二分し、右側の谷沿いへ下る道は折り返すように第2の岩屋への道で谷を渡った対岸の高い岩場に2番目の岩屋がある。岩屋へ登る道は土砂に埋もれてわかりにくい。ここにも不動明王が安置され、上部の岩が口を開いているので規模は小さいが明るい。元の分岐に戻り、山腹の巻き道を登る。やがて谷沿いの道と合流して右の本流へ入って行く。今度は5畳ぐらいの滝があり再び巻き道となって滝の上流で第3の岩屋への道が谷沿いへ分岐する。

ここにも不動明王が安置されている。

これより上流の源流部は険しい谷となるため少し手前の分岐から南の尾根に乗る。シャクナゲが茂り、トチやアナの大木は依然として上空を覆い隠す。高度を上げるに従って後方に久多の集落が見える。山頂が近づくと毎が現われトチやブナ、原生スギの老木が尾根の両側に蒼々と立ち深山の趣をひしひしと感ぜさせる。山頂は樹木に閉ざされ展望はないが、夏でも原生林から吹き上がった風は冷たく、目に見える北山の土産である。岩屋谷は迷わず往路を戻ろう。付立の地形は複雑で、北山での理難事故はほとんどこの山域である。尚、霧籠りするなら滝谷との出合いから岩屋谷の林を少し入った地点がよいだろう。(北山裕久)

ハコースタイムV岩屋谷・滝谷出合(30分)
第1の岩屋(25分) 第2の岩屋(25分) 第3の岩屋(1時間) 三國岳(岩屋コース)
地形図 2万5千・久多
交通 京都バス出町柳駅前から「梅ノ木」行か「広河原」行
梅ノ木から岩屋谷まで徒歩3時間40分。
なるべくマイカーを利用。

エリア別徹底研究

京都北山

あしびたに やぶ漕ぎ痛快山行記

足尾谷右俣廻行と

チセロ峠探索山行

足尾谷(雷火谷)の源頭を詰め二ノ谷林道から尾越に出てチセロ峠から八洲への探索山行を計画する。

出町柳駅7時45分発の梅ノ木行きに乗る。梅雨の短間雨れの天気を確認してくれるNHK予報。しかし蒸し暑い。足尾谷橋のバス停下車、二組り人パーティンと数々の名だはだ。地下足袋に足指えを穿ませ左岸林道を西進する。先ヨ来の降雨で谷水の流れも多い。このぶんならツボクリ谷取れの先から足尾谷左岸は相違ない深かる遊歩を辿いられた。林道終点から夏草繁る谷沿いの山道で、一本角水橋を右岸に渡り、生え込みを縦横は

京都北山グループ

ながさ行く。合歓木(赤い花が満開で、谷歩きを楽しくさせてくれる。又左岸へ(原木造りの丸木橋を渡る。逢うことはないがスリルがあつて石飛びでいんどん進行する。ワリ谷に向かう立派な丸木橋につられ右岸に渡り左の杉林のジグザクの登り道に入り、皆子山麓登りワリ谷道とわかり左岸山道までバック。雑木店裏林、深いコぼいの山道も谷風が吹き抜けやっとなんぶん気分を味わわせてくれる。KRAAC小屋を左下に置きながら行く。ツボクリ谷子(二ノ谷八丁平)の富士の道標が立つが、今日は最初ツボクリ谷の段れから右俣を廻り、大尾集落の松谷道頭から峠越えて尾越、大尾道に出る予定。し

足尾谷の丸木橋



かしツボクリ谷前に渡る橋が流され崖まで浸かる。この先遊歩も多く、見聞きの人もおられ予定時間の進行は無理と判断。元の道標まで戻り二ノ谷道への山の登りにかかる。初めて入る探索の山道。谷からだんだん離れ若杉植樹のトラバース、生え込みアサミの刺が痛い。富士の道標もあやしい併用マユツバも感じながら進むが左俣に降りる踏み跡もわからないまま石投げの跡み跡を残して。



足尾谷村近略図

この地図は、足尾谷周辺の地形と主要な交通ルートを示しています。北側には山脈が並び、谷間に道路や小径が通っています。足尾谷の中心部にはいくつかの集落と施設が描かれています。周囲には森林が広がっており、自然豊かな環境が表現されています。

許原尾根まで右俣頭を詰めればなんとか
二ノ谷林道に出会うことと溪流沿いに登る。
コンパスがかなり北に振るが時間も十分ある
ので、ナメ滝小流を案内しながら広葉樹林の
谷筋をルンルンで行く。誰かさんが、秋の黄
葉の時刻会にリッターします」と、緑っぱ
いの大樹に感嘆感嘆の声。じつに人の入らな
い懐かしい谷だと推測したい足尾谷右俣だ。二
万五千の国土地理院の地図でP5331の点か
ら右俣尾根上のP874とP914との中
間に登り上がる谷。トチ、カエデ、ミズナラ
の原生樹が連なる谷筋を北進、水もせせら
ぐ噴、ルンゼ状の階段登りとなり高差きやヤ

ブ置きを逃げ高差を稼ぐ。最後に一枚岩の背
付き壁に進路を妨げられる。秋には例会のロ
ース案もいつべんに吹き飛んでしまうほどの
難コースに変わる。やはり足尾谷道頭の峻険
さを身に感ずる。左の灌木原付きの急斜面
高差を以て約1200mを安全登行で根曲り
筆番車の手原登昇機縁に飛び出る。詩歌ある
峰床山の頂上や八丁平湯原の盆が周囲から見
え、現在地点も判断でき右俣頭を探索した
喜びが湧く。

時間も12時間、弁当場を捜さねばと線路を
北進、「左俣尾根平手に林道が見える」の声。ト
ツの私もナレナレの木苧、八丁のどの付近に
出るかガムシヤラにクマ笹斜面を下る。「小壁
が見える」の声で樹間から確認するが昭文社
の地図には載っていない小壁だ。500m位の
距離だが道はない。背たけを越す雑ヤブを分
けながら西北へ一直線の道引の列で突進し、
小屋下の林道に飛び出た。12時15分好タイム
で着いた、Mさんに小屋の確率に行ってもら
う。A同志社青里西の小屋の小屋あり、小屋
前は汚いとのこと。牛小屋のマンも落ち
たかを嘆かわしく思う。林道の木陰が涼しく
て涼風だと井端を吹ける。ミンミン鳥が
鳴き出し、ハートンボが冷や奴に止まる。自
然風情は山だけだけの別天地。



二ノ谷林道

や一般四万愛好者の侵入を防いでいる。市も
市有地ながら環境の保護に協力の善意がわか
る気がする。1時間程で尾越レックコントリ
ーの前に到着が、道右へのチセロ峠越えの入
り口がわからぬ。地図記載の竹の祠も見え
当たらず進入路を探す。廃道になっていて
て若い標識は民に聞かぬもさっぱり。老人の方
に「その道なら荒れて生え込みがきつて行け
んことはないけど……」と聞いて藤原山は
跡を通り山道に入る。1500mの高差差の山
道だが腐植化した灌木が通過を妨げるヤブ山
に突っこんでしまふ。早く左に取り付いたの
が失敗、尾根の先に谷筋に尾根を見る。や
はり取り付く口は旧村付北だ思うが時間的に
そこまで戻れない。尾根の高いところまで登
り、ちよつとでも前坂峠寄りに進路を取り尾

越原近に降り着
くしかない。小
ピークから西へ
の松林を尾根を
降りる。もう八
折川、チセロ越
えは時間的に無
理、尾根筋を南
に下がるが又急
の道原に入る。

水の流れば東、こゝも足尾谷の頭頂。今日は
足尾谷右俣を踏めたため、最後まで足尾谷の
頭になる。アア俺はやっぱり弱い。大自然
の強さにはけすきない方しかない。やうとヤ
モノの感で高潮や水害の溜田に逃げ。車の
音も聞かぬ途も近い。深い所は足尾まで入
る溜田をどうにか原出して野道に出た。もう
17時前、とても定期バス便にはどちらに下山
しても間に合わない。タクシーを呼べる大見
集落までと足越を出発、前坂峠越えをエライ
コンチヤとこぼしながら後尾をトボトボと歩
いていると小型トラックが来た。履取社でコ
ウコウシカジカを話し無難に9人の便乗を頼
む。荷台で揺り落とされないよう緊張しながら
大原まで乗せて頂く。17時30分すぎ大原で
着くことができた。楽しい一日も終わり、前
半はママママ後半はナンジャラホイの山行で
した。平成7年7月14日(土)。(出口近交)

▲参考タイム▼足尾谷橋9・10―林道終点
9・50―ツボクリ谷分岐10・20―石橋10・
50―府県境尾根11・50―二ノ谷林道12・15
―13・30―尾越レックコントリ14・30―16・
30(この間チセロ峠を探索するも未明―前
坂峠17・00―大原17・30

▲地形図 2万5千―花背
昭文社「京都七山」

(この花の正名)

ニク (Paeonia lobbii)

トキ (Ligustrum)

園芸的なものの中には、生花を生か
しきれない、その強健な生命力を感じあ
は、秋の口紅の二つで取り、おひらき
の美しいものである。

園芸的なものは、心血的に取寄せ
ている遊覧の。秋からの遊覧に於いて
根を採掘し、その強健な生命力を感じあ
は、秋の口紅の二つで取り、おひらき
の美しいものである。

園芸的なものは、心血的に取寄せ
ている遊覧の。秋からの遊覧に於いて
根を採掘し、その強健な生命力を感じあ
は、秋の口紅の二つで取り、おひらき
の美しいものである。

園芸的なものは、心血的に取寄せ
ている遊覧の。秋からの遊覧に於いて
根を採掘し、その強健な生命力を感じあ
は、秋の口紅の二つで取り、おひらき
の美しいものである。

登山に必要なものは、
田産・舶米
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中央区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-0318

山とスキーの専門店

京都 **ムラカミ**

天川・弥山に涼を求めて

松永恵一

どっしりとした山容の弥山



を口伝させた日本独特の宗廟の聖地とした。

今一つ吉野は、古来天皇の人々の隠れ里であつたという指摘。大御人皇子が一時政界から退き、壬申の乱を起した地、源義経や義経が敵の追索を逃れる為に住んだ地、後醍醐天皇は吉野に依りて皇座を定め、この地を足利氏打倒運動の中心とした。

俗話をきいて吉野山に隠棲した遊行法師の跡を訪れた人達、吉野は「野晒紀行」と「愛の小文」の二回の旅を訪ねている。本居宣長は「菅原日記」上田成成は「四條橋の記」で、谷文晁は「日本名山図会」に金峯山を説き、明治26年、引成の鳥居蔵村が「山家集」を抱いて訪れ、「探へたりし山家集をひもときて、風より外にとよ人もなまといへる歌ども思ひくれば……」と「訪古行簡記」に記し、幸田

露伴も明治44年に前れる著、文人墨客は、古来数えきれないほど多い。

あなただの学問的方向がますます確立されてゆくのをうらやましく眺めました。

この夏また吉野を歩くらうね。こんどは「吉野の奥、深い山中の隠れ里、天川村に天川弁才天を訪ね、奥宮の弥山へと巨を逐はしてみてはどうか。明治・大正期の紀行文学で知られる大町梧月が大峰・弥山に登り、弥山小屋の前に祈禱を執す。

吉野からの王経

少し御無沙汰しました。この間の吉野から手紙頻しく読みました。吉野の夜はソメイヨシノではなく、若菜と同時に開花するシロヤマザクラが多いというくだりは、思わず笑いました。ソメイヨシノは明治初期、東京築井村、藍屋區駒込の植木屋さんが作り、名付けたもので、吉野山とは無関係だとおななに話したのは、たしか去年の新緑の頃。

大和半野の川に比して吉野川は、全く趣きを異にして、山深く、水響く、崖勝の地として古代から知られていた。古代の人々は自然の恵みかき、さらには清らかさ、厳しき、神々しさからくる超自然な力を感ずるとり、修験道(密教を土古に山岳間、神道、道教、儒教

大峰山脈

吉野から熊野に及ぶ大峰山脈を縦走する修行路(登山路)は、修験道の最大の行場であり、金峯山(山上ヶ岳)・小住・生の岩屋・弥山・深田・前見・工藤山・熊野三山などに数多くの霊場が設けられ、近世中期以降は大師の二十五尊(尊)と呼ばれた。この二十五尊のそれぞれが行場であり、彼小角(彼行者、神楽大菩薩)の伝説を持つ。なかでも吉野から山上ヶ岳にかけては大峰山と総称され、多くの修験者が集まり、修験道の一大聖地を作りあげていた。彼らは開道として彼小角をいたなき、薩摩の身を染した金剛蔵王権現を本尊としていた。

山上ヶ岳頂上の大峰山寺からは、藤原道長が御成道し埋納された寛弘4年(1014)の銘の金剛権現を以て、開道にかかわる大いなる道場が出土していたが、昭和39年(1964)に金剛院の阿闍梨阿波連と修験道が出土し、その信向の姿を如実に示した。

八世には真言密教の修験道(山岳)の象中の地位が置かれ、弥山には弁才天が築られ、香道(香中)の深田は年中の中台とされ、又古来本山の敷地(山)として築かれたところであった。前掲はこの遺跡を支えた彼小角の弟子、前見の子孫の住む家であった。

大峰の山々の間に続く紀州熊野の山々は「蟻の能野参り」の熊野窟の地、平安中期以降、修験道が熊野窟で起こされた。熊野の海は「神皇正統記」という海上修行の地。

吉野・熊野から吉野山と紀州半島を一つに捉えてみると、そこに信向の姿が見える。

天川弁才天
なんというても半の内は都
つづみ本敷の音がする

天川弁才天はゆったりと流れる天川が蛇行した坪内の森の中に鎮座し、老杉の蔭に昼もほの暗い。石段を上ると社殿に向き合って能楽がある。豊後建て直された見世神社には、神の芳しい香りが満ちている。最近復元「天川能楽人事件」で有名になった。

弁才天の神様として広く信仰されている天川弁才天社は、大峰本宮大天女財天社と公称し、熊野は弥山弁才天社と称して、ともに弁才天をまつる。この天川弁才天社は日本第一の弁才天で、第二は熊野、第三は行基であるという。

弁才天は修行者が修行したとも、弘法大師が千日修行したところ出現したとも伝え、弘法大師にまつたものを演じている。「空海少年の口、好んで山水を渉覽して、吉野より

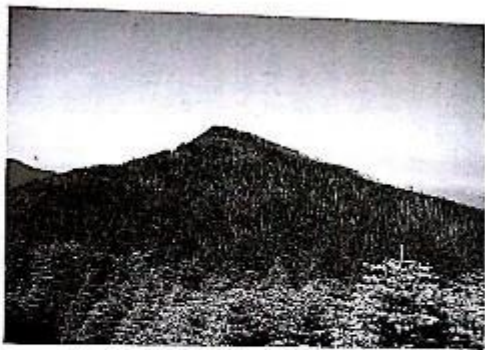
南に行くこと一日、更に西に向って去ること同日にして、平原の幽地有り。各づつて高野と曰ふと、九世紀初頭に書かれた回唐記「性靈」集に記す。吉野から南に行くこと一日と

は、坪内であり、更に天の川沿いに大谷村坂本を下り、野田川村村原から陣ヶ峰を通過して高野山へと通じる。大和から吉野を通過して高野に行く天川渡各の街道が、早くから開けていたことは疑われない。

文禄3年(1594)の吉野花見の折に奉期した能楽が残る。吉野山から高野山へ参詣する大行列は弁才天社を通過していった。

能楽の大蔵者(田舎)のあとをついた神皇十郎元雅が寄進した阿古女附の能面が伝わる。寛文3年(1723)心中成道(成道)の一文が記されている。十郎元雅は祖父親阿弥(親阿弥)の末裔であったが、南朝以来の権威からあった成道の神に奉進され、父世阿弥とともに奉進した。失意の十郎元雅はこの地に遷居した。

寛文13年(1733)熊野の伝説で著名な田舎が、この地にとどまって、弁才天社に大天女を敬し、熊野能楽に熊野能楽(熊野能楽)弁才天・金剛童子・護法神(護法神)を奉立した。大峰と天川に年々へて、
よみくる春に花を見るらむ 田舎



弥山から八経ヶ岳をみる

コース概観

弥山に登るといふと、最近では車で行者葱トネルの西口まで行き、登る短コースをとることが多いが、今回は近鉄古野線上市口駅から笠木乗り換えの中継仕行きのバスを利用し、坪内で下車、天川弁才天社に参拝し、古くから開けた坪内道で弥山山頂から隣接する近畿道同様の八経ヶ岳へと登り、同じ道を下り、村宮の天の川温泉まで汗を流す。



天川・弥山付近略図

は立派な遊離小屋があり、キャンプ地に最適。弥山(1899m)には木の階段を登る。7月の初め、清楚な白い花が咲いていた。天女の花と呼ばれるオオヤマレンゲだ。右手に大黒岩を見、トウヒ・シラベの立ち枯れが目立つと、まもなく弥山小屋の前になる。鳥居をくぐって30ほど坂をのぼると山頂に弁才天社があり、前に護国塚が設けられている。

近鉄、市口駅で下車、山家なれども下市は須、大阪商人の練でござる」と歌われた地。駅前のバス停から10時47分発の笠木行きバスに乗る。下市から天川弁才天までの30分、のバスは国道308号線、伏野・広橋・丹生川上の下社・笠木を経由する。笠木で中継仕行きのミニバスに乗り換え、天川川合から右に折れて天の川の流れに沿って下ること4.5km、弁才天下車。12時15分、洞赤い弁才天橋を渡り、天川弁才天社に詣でる。この日は坪内の民宿で一泊し、翌日は早朝に出発しよう。

弁才天社の前を通り過ぎ民家のはずれから坪内内容の林道の入り口に出る。この地点は弁才天社の行場になっていて、道標に従って右側のスギ・ヒノキの植林されている山腹を登ってゆこう。腰型のさかない雑林の中の道で一汗かくことになる。最初は急坂であるが、道の両側に杉の切株が現れ、若木の植林に変わるあたりから展望のよい尾根道になる。坪内の家並みが小さく見える。少しずつピッチ道を上げよう。まもなく大黒岩。坪内内容の林道を歩みスギの植林山を過ぎ、ここ大黒岩に合流するのが小野道。最近では草が刈られていないので、踏み跡程度になっている箇所もあるので、おすすりできない。

橋原山の北西の大原から少し登り坂となり、すぐ下りになる。下りきった所が柳屋社。いまにも崩れそうな小さな遊離小屋が建っている。ここで川合平と合流する。ちよつとしたぶきになっていて、急登を切って止を越えてきた体に、一息いれよう。

柳屋社から再びぐんぐん登り、しばらくでナメリ橋。尾根にでると頂仙の洞窟が17・4m、が頭を見せる。しばらく進むとちよつと緩い傾斜が休憩に適した鞍部に着く。途中左木のベンチがしらえてある。再び登って行くと柳屋池と右付けられた薄地に着く。弥山川の河原小屋への踏み跡は北の道を左へ分かれる。ナベノ耳(頂仙の北の懸を過ぎると頂仙の西面をからんで高橋橋を下る。8月の始めには白いホソバコガクが美しい。

耳をすますと谷の水の音が聞こえる。まもなく弥山川の急流。鮮やかな峡谷の縁に囲まれて流れる、青く清らかな流れ。空気を胸いっぱい吸い込む。緑の匂い、しずきを匂い、そして山の匂い。まわりの自然が五感を心地よく刺激し、流れの音が体のすみずみまで暖しく包んでくれる。清流の冷たさ、暖かいになり、胸ごと水につけてみる。胸じゅうを水だらけにして、起き上がる。猿半に

弥山は宇市の中心をなす須弥山を意味し、古野と熊野の地縁としてとらえられている。

小黒沼よりもよいが、テントで泊まってしまう。杜女を聞き、原生林を吹き抜ける心地よい風に身をゆだねる。なんともいえない爽快さ。暗闇が訪れると古石をひっくり返したように、頭上全体がきらめく。天然のプラネタリウムの幕は開いた。翌日の御来光は向かい合う八経ヶ岳。経ヶ岳(1914.9m)で迎えよう。トウヒ・シラベの原生林を下り、鞍部の古今宿を経て30分で山頂。夜の空に輝いていた星が見えなくなり、空が赤みを帯び始める。刻々と空の色が変わり、乳白色の雲が流れ降り始める。赤の雲が増え、赤い点が見える。ゆるゆると揺らぎながら真っ赤な雲が駆け足で姿を現す。思わず手を合わせる。今日もいい日になりますように。

翌日に白又川の樹海が広がり、東に大谷ヶ原、南は弘生ヶ岳から龍池ヶ岳などの山々、北は大井野山・行者道橋、僅か指の間の間をおいてとっしりと弥山がまたわつてい

桐りは背後に弥山の巨体を尻ながらとんとんと下る。坪内には天の川温泉が待っている。浴槽は湯桶を使い、木の香りがいっぱい。

際、の食卓から食事運んでもらったのんびりとくつろぎたい。

ハコースタイム

近鉄下市口駅(バス1時間30分)坪内(2時間)大津社(20分)大原(1時間)橋原社(2時間)猿半(1時間)弥山(狙)弥山八経ヶ岳往復は約1.5時間

近畿道同様の急流を下市口駅7:00

下市口駅、坪内(バス)1:15

新橋社、2:00

地形図、2の方角、南白雲・弥山

昭文社「大原」

奈良交通バス吉野温泉所

07475(2) 4101

坪内へ下市口駅発10:47と17:45(いずれも笠木乗り換え、坪内発11:04(笠木乗り換え)と15:33(5月20日・11月23日開通)天川川合乗り換え)の1日2往復だけである。

川合道を登るもしくは降路は遊離小屋の便はよくなる。

大川町企画観光課07476(3) 03021

弥山小屋 07475(2) 13333

天河大宮観光社 07476(3) 05552

天の川温泉 07476(3) 03333

(入湯510円、11時~20時、火曜定休)

関西周辺

盛夏の山

特選 コースガイド

- ① 良山
- ② 南宮山
- ③ 八淵の滝
- ④ 金葉岳



盛夏の山

別天地のような涼しさが待っている。
 今年の夏山はどこへ行こうか。7月に入ると計画もほぼかたまってくる。海外の山へと
 いう人も最近多くなったが、やはり関西から

暑い夏がやって来た。しかしハイキング旅の私たちは夏こそ大歓迎だ。都会の蒸し風呂のような日本の暑さも、いったん山へ入れば

だと南アルプスや中央アルプス、八ヶ岳などの
 の気温が高く、北アルプスへの入山者も多い。
 長期休暇を利用してさらに東北、北海道、南
 は九州へと足を運ぶ人もある。
 暑い登りも一日の我慢で終わる。後継に
 抜ければあとは天上の楽園だ。高山植物は一
 際花ひらき、色彩も鮮やかに山の斜面をう
 めつく。山頂からの大展望をたのしみ、雪
 深に遊ぶ。そこからしみ出る冷水でつくるコ
 ーヒー、紅茶は最高の味がする。テント場や
 山小屋で一掃になった見知らぬ人とも会話が
 はずみ、すぐ友だちになれるのも山の特権
 だ。自然は私たちに優しくしてくれるので、
 日差しが強い夏の前には樹々の葉が茂り、木
 陰の道を作ってくれる。谷を源流につめて歩
 く沢登りも人気が高い。足を水につけて歩
 き爽快感はまさに夏の山歩きには最適な遊びと
 いえる。そして夏はそれに適うよう水量も減
 水してくる。鈴鹿、比良、大峰などにはそ
 んな沢登りの谷が多い。
 開放的な夏ほど自然の懐に抱かれて遊びた
 いものだ。子安達と一緒に歩いてみよう。
 日頃、知らない草花や樹々や岩や石など、虫
 や小鳥のさえずりに出会った子供たちの目は
 輝いてくるにちがいない。大いに汗をかいて
 たくましい心身を養おう。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑤

「華やかな、夏の尾瀬」

松下 満

さあよいよ夏、一番華やかな尾瀬のシ
 ズンが到来する。木道には色鮮やかなジャケ
 ットのハイカーの列が続く。

至仏山には世界でここと谷川岳にしかない
 「ジョウシユウアズマギク」をはじめユキフ
 リソウ・チシマアマナ・ムシトリスミレ・シ
 プツアサツキ(ラツキョウの仲間、ネギ坊主
 にそっくり)ウサギギク・オゼソウ・キバナ
 コモノツメ・タカネナデシコ・タカネトウチ
 ソウ・ホソバヒナウスユキソウ(スイスの名
 花ニールワイズに近い植物で生育する場所

は至仏山・谷川岳のある上信越の高山に限ら
 れており非常に貴重な植物である。などが見
 られる。この至仏山への登山は鳴門峠―至
 仏山頂の往復になる。従って鳴門峠の通行山
 荘に荷物を預け必要な物(弁当・水筒・雨具・
 非常食)だけを持って歩くことができる。こ
 の山は折敷岩で形成され非常に滑りやすい。
 小至仏から至仏山頂にかけての稜線は、片側
 が絶壁状になっており、悪天候、強風時には
 登山を中止すべきであろう。10年前前には
 稜線から滑落し、20数日ぶりに救助された女
 性のことは記憶に新しい。

この山の東約6kmにある燈ヶ岳は東北地方
 最高峰で、昨年国土整理院は従来の標高より
 10m高い2456mと訂正発表した。一般的
 に花と言われる植物は少なくキヌガサソウ・ウ
 パメモト等であり、北面によく見られたコ
 マクサが最近見られなくなったのは寂しい。
 湿原に目を向けるとニッコウキスゲの絨氈
 が現われハイカーの歓声が聞こえる。この花
 が一日花であることを知っている人は花道。
 「花の生命は短くて」を感ずる。地蔵に導
 かぶ尾瀬で一番の寝坊坊ヒツジ草。木の刻(い
 まの午後2時)に白い花がひらくのでこの名
 がついたという。午前10時頃までに通った人
 は残念ながら雷の状態を見るだけである。と

きに早起きの花もいるので見ることもある。
 同じ地蔵にオゼソウホネの黄色い花が水中よ
 りによつたりと花茎をだし、あるかなさかの
 風にそよぐ風情がよい。水河時代より生き残
 っていると言われるこの花の花言葉が「木陰
 の恋」とは解さない。キク科の植物アザミ、
 この中に尾瀬特産のオゼメアザミがある。
 高さは1m以上で花は紫色、葉は茎を抱き
 込むように生じ、切れ込みが深くその先端に
 剛針があるのが特徴。野アザミ・タムラソ
 ウは花茎を長く人目をひく。マルバノモウセ
 ンブケ・ナガバノミウセンゴケも長く、細い花
 茎の先端に小さな白い花を数輪、せむじにと
 めて欲しいものである。花期の長いものにコ
 バギボウシ・キンコウカ・マルバダケブキ・
 イフショウブ・ナワギキョウ等がある。六兵
 衛加賀道に「オニノヤガラ」というケツタイ
 名のランが見の金帯に似た形でクリーム色
 の花を咲かせている。樹間ではサンカヨウ・
 ソウ・モミジカラマツ・ヤグルマソウ・ハン
 ゴンソウ等を見ることが出来る。平地ではも
 う見ることができなくなった「ハツチヨウト
 ン云」体長約2cm、真っ赤な姿は目に鮮やか
 である。水面にはオゼイトトンボの雄蝶が青
 香を撒散している。

特選コースガイド

大正池から

うしろ

良山

南山城

初級コース(★)

内田 嘉弘

京橋駅からの「良余良線」は長池駅を過ぎると天井川の良谷川を沿り、青谷駅を過ぎるとまた完全川の流れ川トンネルを沿り、その次の水が玉水駅。そのホームに高さ10m、幅20mの茶色の大きな岩がある。昭和28年の「南山城水害」の時に玉川に流れて流されてきた岩で、その横に水難記念の碑がある。「南山城水害」それはこの町にとって甚大な被害である。前後来の雨は、時雨量量二五〇ミリを超える稀有の集中豪雨となった。そして、暗闇の中に狂った水魔は町人も人も一瞬のうちに蹂躪し一夜明けた町は一〇七人の犠牲者を合む無惨な悲惨地獄であった。当時も駅舎ホームは文字通り河原と化した。この石(六トン)は東南西五〇〇m先の玉川から押し流

されて来たものである」と書かれてある。私はこの時、高校生で後日間もない余良線の車窓からこの水害の生々しい惨劇を見た記憶がある。

玉水駅前に、南山城ハイキングコース(全長12.5km、約四時間三〇分)「玉水駅→玉川→赤石山→小野小町塚→地蔵神社→玉津神社→左馬(駒宮)→後醍醐天皇墓→下殿塚→中神降塚の墓→大正池→六休石仏→代官屋敷跡→龍王の滝→山城多賀フルーツライン→高野神社→山城多賀駅」の案内板があって、これに従ってコースを辿り、良山へ行こう。

駅前から「R」に沿って南へ向かい「R」に乗かる橋を渡って、河原段上への道を辿る。段丘上のかた田圃に霞を染みながら東へ進むと上井手、突き当たって右の道を歩くと、桜の名所の地蔵神社が左手にあって、その参道を通ると小野小町の墓がある。あちこちに小町の墓があるらしく、これも見ておくとよい。玉川を右岸に沿いながら在野に渡ると駒宮左り馬(駒宮)。

「駒宮」の花ごころに刻まれた左り馬は、「安芸上達の神」つまり女性の習い事の一つである豊後舞(太鼓)を生け花ひいては舞踏などを志す人の守り神として、古くから舞踏の対象になっていた。作者や制作年代は不明であるが、

三角点のある山頂であるが、樺木の中で展望はない。
下りは、北への後線を行こう。この後線はやがて西に向かうようになり峠に着く。峠の名前は手の平という。北へ下ると平治田原、南の良谷を下る。深い平谷を登り、下りきると良谷川との出合いで周囲は茶畑である。この辺りは多賀新田と呼ばれ享保17年(1732)に開墾され、昭和の初期まで続いたが、現在は田んぼの跡さへ確認できない。ここにはその関係で代官屋敷跡と六休石仏がある。

この良谷川を下ると「龍王の滝」がある。高さ15mで明治中頃まで高野神社の末社「祈雨神社」があった。日照りの乾く時、雨乞いが行われた。祈雨神社に御神酒を供え、「雨を降れ龍王いなあ」と龍王様に願い、近くの北峠まで松行列列をし、山頂を焚いたという。後は、多賀フルーツラインを経て「良山城多賀駅」に着く。

△コースタイム▽
「R」玉水駅(30分) 小野小町の墓(20分) 駒宮(15分) 後醍醐天皇御墓(30分) 良山登り口(30分) 良山(20分) 手の平(15分) 良谷・南谷川出合い(15分) 龍王の滝(30分) 「R」山城多賀駅
△距離表▽ 2万5千メートル



二上山から見た良山



るが、躍動的な特徴を持ったことから鎌倉時代のものだと考えられている。元は玉川左岸の山腹に傾斜していたものであり、寺々京都や大阪から参拝する人も多かったと聞く。と地蔵の立身がある。昨年、公園として整備された。これを遊覧と遊歩場が左岸にあり、道はまた右岸に渡り、そのまま、うねうねした舗装道を上流に向かうと奥の河原に出る。その手前の橋の袂に、後醍醐天皇御遺跡がある。由緒書と相歌があつたつ派えられている。この近くの有王の地で後醍醐天皇は深草入

道・松井蔵人によって捕らえられた。

この後醍醐天皇御遺跡の辺りを庄村新田、元禄15年(1703)に開墾された。この田村新田の上流に大正池がある。この池の東側を巡るところにして多賀へ抜ける峠に出られる。峠を下ってすぐ右からの沢に出合う。ここが良山への登り口である。1丁結核の遺跡が沢沿いについている。これをほとんど話めるとやがて普通の山道になり、スギ林から雑木帯に変わる。後線が近い。樺根通しに湧き出る。右は透視の透き、良山へは左へ行く。樺木の後線を通ると、やがて山道は二つに分かれるが、左を走ると、すこしの急坂を登ると3等

日本最高標高(2400m) 温泉

立山・室堂平

みくりが池温泉

連絡先 〒930

富山市湯末広町

電話 0764-41-0434

富士登山・富士五湖・東海自然歩道
平野一平尾山一大平峠一ハリモミ純林
(パンフレットすぐ送ります)

山中湖
ペンション コットンテール

〒401-05

山梨県南都留郡山中湖村平野

電話 0555-65-8515

特選コースガイド ②

南宮大社から

南宮山

美濃

初級コース (★)
慶佐次盛一

南宮山は、伊吹山地と森老山地に挟まれた狭い谷間にあり、壬申の乱や天下分け目の関ヶ原の合戦など、歴史に残る戦乱の嵐が過ぎ去った所だが、古来から東西を結ぶ交通の要衝でもあった。南宮山はこの地に鎮座する南宮大社の御神体山である。

南宮山といえは信濃の諏訪大社、伊賀の叡国神社と美濃の南宮大社が有るが、その隣木社は信濃の諏訪大社である。美濃の南宮大社の祭神は金山彦神で、金山彦神は饗祭神として崇められる。美濃赤坂や関の刀鍛冶は有名だから、この地に饗祭神の金山彦神を祀るのは当然だろう。

伊賀の叡国神社の祭神は少彦彦神だが、神社近くの佐那具からは新羅が出てくるし、伊

賀の國も刀築治や海鏡が輩出を祈ったことと思えば、少彦彦神も饗祭神なのであろう。叡国神社の正面の山(359.9m)を南宮山という。

さて南宮の総本社といわれる信濃の諏訪大社は、松本で祀られる有名な諏訪名方(命)だが、古の神として知られている。風といえは古代の製鉄方であったタカラには欠かせないもので、建御名方命にも饗祭神としての神格が窺われる。諏訪大社が饗祭の神を祀った南宮の総本社といわれるからには当然であろう。古民の産鉄長は両の方向を時に神聖視した。建御名方命の「御名方」とは、「両方」のことであろうともいわれる。

諏訪の神は山出雲の國譲りの戦いに敗れてその勢力を東へ移した神だが、南宮と呼ばれる社を訪ねてみればその足跡がなごめられる。なごめられるか。夏の一口、謎に包まれた古代のロマックを訪ねながら南宮山へ登ってみよう。

東海道本線並井下車。駅南を西へ歩いて左折。南宮大社の方へ向かう。前方には南宮山の低い山並みが見える。国道141号線を横断して新幹線のガードを渡りぬけると南宮大社の参道で、道端の側溝の蓋には饗祭神の御名が刻まれている。これに白玉で、南宮大社の神木なのだ。

池形図の40.4mの標高だが、増元ではこれを南宮山と呼び、古くは天鏡山、不破山とも呼ばれ、関ヶ原の合戦には毛利秀元の陣所でもあったらしい。山上には東照風の休憩所があり、望遠鏡も備えられて広大な濃尾平野が一望できる。

そよぐ風がこぼれれば、一般のハイカーは元のコースを戻ろう。池形図の南宮山41.9・2位の2番三番点へは藤山経路を同じくして道はなく、視界もなから高尾山が必要だ。三番点へは40.4mの南宮山から、垂井町と上石津町の町界線線路を西へ下る。最初の鞍部までは踏み跡があるが後はない。

町界線線路を卒業した。町界を横断する坂線で示されている時への下りは時ど時ひびく。無名の峠の南側には、古い水場が残っている。味からはかすかな踏み跡が続き、2



南宮山付近略図

番三番点の南宮山に着く。樹林と雑木に包まれて展望は皆無だが、幸の中はまだ新しい三角点が残っている。

南宮山展望台山頂



やがて南宮大社に到着。美濃国一宮といわれるだけあって、参詣者で賑わっている。まず目につくのは早稲米朱塗りの楼門である。楼門を番して社殿に参拝する。社殿も漆やかな朱塗りで美しい。社殿は東西南向だが、その反対の北西へ延長線をのぼすと伊吹山だ。これから登る南宮山が南宮大社の御神体山といわれるが、本当の御神体山は伊吹山ではないだろうか。伊吹山は古代の金祖の山なのだ。

下山は元の無名の峠に戻り、破線路北へたどるのが無難だろう。最初は破線の道が認められるが、各への下降は膝こぎだ。小さな谷を下るうちに踏み跡が現われ、やがて林道となり、大谷池のそばを過って南宮大社への参道になる。

▲コースタイム▼

垂井駅(25分) 南宮大社(50分) 南宮山(35分) 南宮山三角点(60分) 南宮大社

池形図 2万5千1:1大縮

松田敏男 山の絵画・版画展

1992年7月14日(日)～7月19日(金)

AM11:00～PM7:00(最終日はPM5:00まで)

高尾山と野に想いを馳せ、日本山岳、一帯一帯の研究、新ハイキングブーム、登山の発展、南アルプス山岳の魅力を伝える。

ヒルゲート

〒104 東京都中央区本町三丁目1番1号

TEL 03-231-3702(事務局)

TEL 03-262-1161(受付)

八淵の滝から

比良山へ
比良

中級コース(★★)
濱田 啓司

八淵の流は、比良山の最高峰の武奈ヶ岳付近を水源として北東に流れる八池谷(下流は鵜川)に運送して懸かる滝群で、変化に富んだ大小の滝は石橋化などの樹木の間に魅力的な姿を見せる。大滝群を真ん中にして上流・下流に八つの滝がある。

JR朝西線の近江高島駅から修行寺のバスで約20分、鹿ヶ瀬口で下車する。奥富島青少年旅行村の道標に従って歩くこと約1時間。途中寒風峠への分岐を通過。ゆるやかな登りでも汗が噴き出してくる。修行村の水陰で一息入れよう。

ここからは山道だ。途中右側に八淵の滝の最初、「魚止めの滝」への下降路があるが、谷筋は悪路で、通過は難しいので別愛すること

にした。登山道をしばらく行くと「空戸の滝」への乗替路があるがこれも通過して直接「大滝群」に出た。

ここは広くなつた岩の川原で、流が白い泡となつて大きな滝壺に落ちている。落着はあまりないが美しい。強烈な太陽の光が木の間隙しに水に映えキラキラ光っている。水は川底まで透き通り、花崗岩の砂がサラサラと音を立てているように感じた。真ん中の大きな岩に右から横滑りするような音が刻み込んである。たぶん「八淵」と書いてあるのだろう。絶好の写真撮影の場所だ。

ここから右岸を通り沢沿いに滝を見ながら登る。「小滝群」を過ぎ、やがて水陰で暗くなつた右岸の狭い谷間を登ると、兩岸が切り立った「屏風の滝」の上に出た。上から覗いて見たが滝はよく見えなかった。

この奥に空々とした「貫船の滝」が見える。右岸の岩壁の高さから慎重に沢に下つて左岸に渡る。水しぶきが飛び、音が鳴り、流の壮大さを演出している。貫船の滝の落差は40メートル。左岸の岩角に鉄の梯子や鎖が懸かり、人が登っているのが見える。流の横の梯子を、ちよつとしたスリルを味わいながら慎重に登つて貫船の流の上に出た。落着に水が落ちる滝を見ながらの足音は楽しかった。

貫船の滝



ここから、上部は穏やかな流れになる。真夏の太陽が照りつけ、気温も高く汗が滴り落ちる。丸太橋を渡つて、何段にもなつて流れる「七淵返し」の滝に着いた。昔この滝に酒樽を投げ込んだら七度酔ったと云われて中酒が無くなつていたのでこの名がつけられたとか。立派な名前だがそれ程のことはない。落着の八淵の滝もこの滝で終わりになる。

沢を登つて道標に従つて急に左に由がり、ジグザグのオガサカ道を行く。大きな花の繁つた中を登ると、やがて榎木も低くなつて後縁に飛び出した。左に進むと釈迦岳、右にとるとすぐ比良ロジだ。ここから釈迦岳には1時間30分ぐらいで往復出来る。帰る

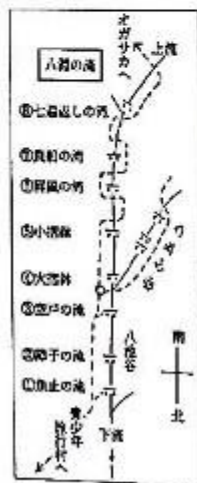
シヤツは汗でぐしょぐしょだ。とにかく水を飲むことに一生懸命で、釋誓湖の眺望を兼ね余裕はなかった。ロジの陰で日差しを避けて冷えた缶ジュースを飲み、やつと一息ついた。

ここから比良山の最高峰武奈ヶ岳までは八雲ヶ原・イブルキノコバを通り、上り70分、下り50分。真っ直ぐロープウェイとリフトで下ればリフト山頂駅まで約20分、30分。ここからバスがイン谷口を通り、比良駅に通じている。ロープウェイの山上駅も着かった。ここで釋誓湖の雄大な景色を眺め、しばらく休

憩の後ロープウェイで下ると別れて北比良峠から夕ヶ道を下つた。

釋誓湖はすつきりと時れている。北側の山肌はゴンドラが動いているのが見える。途中風化した岩が寝食されて道が深い溝になつたところがあつてとでも歩きにくかった。汗だくで大山口を下る。

正面谷に出るとまた釋誓湖が見渡せる。空と湖水が一体となつて広がる。快い緩れを感じながらのんびりとイン谷口に下つた。



- 【八淵の滝】
奥富島の青少年旅行村から登山道を行くと①「魚止めの滝」がある。最初の滝で落着初め、続いて水陰壺
- ①七淵返し
 - ②貫船の滝
 - ③屏風の滝
 - ④小滝群
 - ⑤大滝群
 - ⑥空戸の滝
 - ⑦獅子の滝
 - ⑧魚止めの滝
- TEL0775(73)2703
江若交通バス

かに登下するのが「獅子の滝」で高さ10m。⑧「空戸の滝」は両岸とも急崖で通過は困難だ。普通これらの滝は通らず登山道経由で直接大滝群に出る。④「大滝群」は落差約30mで、名の通り大きな滝壺だ。⑤「小滝群」は落着の滝。高さ10mは足らずの⑥「屏風の滝」に続くのは「貫船の滝」で八淵第一の名瀑。落差40mは足らず。最後の滝は⑦「七淵返し」で高さ10mは足らず。この他ワサビ谷にも幾つかの滝がある。

△コースタイム▽鹿ヶ瀬口(80分)修行村(20分)大滝群(25分)貫船滝(35分)七淵返し滝(オガサカ道経由)50分 比良ロジ(10分)山上駅(65分)大山口(70分)イン谷口(地影図)2万5千「北小松・比良山」昭文社「比良山系」問い合わせ

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電・京福
公開ハイク 歩き歩き大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近畿
▽文学散歩「泊瀬平 慈徳寺から長谷寺」 7月5日(集合)大塚線大和郡高取駅前10時30分コース
大和郡高取駅→玉淵神社→春日神社→白山神社→十二柱神社→長谷寺→長谷寺駅(約7.5km、会費2000円)
▽特別企画「大杉谷探検」 7月11日(出)13日(帰)集合吉野線大和上市駅前9時30分コース(二日)大和上市駅→大台ヶ原(東コース)→大杉谷探検→桃の木山の家(谷口)→三日目、山の家→大杉谷探検→大杉谷(約2.5km、会費2000円)
▽特別企画「大杉谷探検」 7月11日(出)13日(帰)集合吉野線大和上市駅前9時30分コース(二日)大和上市駅→大台ヶ原(東コース)→大杉谷探検→桃の木山の家(谷口)→三日目、山の家→大杉谷探検→大杉谷(約2.5km、会費2000円)
▽特別企画「大杉谷探検」 7月11日(出)13日(帰)集合吉野線大和上市駅前9時30分コース(二日)大和上市駅→大台ヶ原(東コース)→大杉谷探検→桃の木山の家(谷口)→三日目、山の家→大杉谷探検→大杉谷(約2.5km、会費2000円)

▽特別企画「夏の太台ヶ原(東大台コース)」 7月25日(集合)あべの橋駅口テレメイトセンター前7時40分コース(あべの橋駅(特急)大和上市駅→大台ヶ原(生石ヶ原)→大台ヶ原(生石ヶ原)→大台ヶ原(大和上市)→あべの橋(約9.5km、会費5750円、小人3100円)定員150名(電話申し込み制、あべの橋駅口テレメイトセンター0

6(624)0026
▽特別企画「夏の太台ヶ原(西大台コース)」 7月26日(集合)あべの橋駅口テレメイトセンター前7時40分コース(あべの橋駅(特急)大和上市駅→大台ヶ原(生石ヶ原)→大台ヶ原(大和上市)→あべの橋(約9.5km、会費5750円、小人3100円)定員150名(電話申し込み制、あべの橋駅口テレメイトセンター06(624)0026
▽特別企画「夏の太台ヶ原(東大台コース)」 7月25日(集合)あべの橋駅口テレメイトセンター前7時40分コース(あべの橋駅(特急)大和上市駅→大台ヶ原(生石ヶ原)→大台ヶ原(大和上市)→あべの橋(約9.5km、会費5750円、小人3100円)定員150名(電話申し込み制、あべの橋駅口テレメイトセンター06(624)0026
▽特別企画「夏の太台ヶ原(西大台コース)」 7月26日(集合)あべの橋駅口テレメイトセンター前7時40分コース(あべの橋駅(特急)大和上市駅→大台ヶ原(生石ヶ原)→大台ヶ原(大和上市)→あべの橋(約9.5km、会費5750円、小人3100円)定員150名(電話申し込み制、あべの橋駅口テレメイトセンター06(624)0026

'92北アルプス山岳スキー協会登山企画 ふれてみませんか? 北アの大自然! 大雪溪の涼風

J 白馬岳アルプス登山 ¥26,500
①7/18 ②7/24 ③7/28 ④7/31 ⑤8/2
⑥8/7 ⑦8/9 ⑧8/18 ⑨8/22 ⑩8/29
⑪9/12 ⑫9/19 ⑬9/26
●北ア白馬駅前7:00集合・出発
1泊3食付・現地ガイド同行

H 「今井満子」さんと歩く
白馬岳トレッキング ¥21,800
3/5(出)~6(帰)
●北ア白馬駅前8:00集合
1泊4食付

G 唐松岳&五竜岳 ¥32,800
①8/8 ②8/15 ③8/22 ④9/13 ⑤9/25
●北ア白馬駅前14:00集合
2泊6食付
●八方池山荘、五竜山荘泊りのゆったりプラン

H 白馬岳フラウトレッキング
「永田芳男」先生同行 ¥46,800
7/29~8/1 雲上のフラウトロムナード

H 白馬三山~白馬麓温泉 ¥35,800
7/26~28 のんびりトレッキング

H 白馬大池~蓮華温泉 ¥22,800
①8/29 ②10/3 ウェストンも楽しめた

H 白馬岳・雪倉岳・朝日岳&蓮華温泉 ¥44,800
①8/8 ②9/12 花を求めて

H 雨鈴山・風吹大池&蓮華温泉 ¥34,800
10/8~11 紅葉の百名山

H 燕岳&餓鬼岳 ¥32,800
9/25~27 秋の静かな山旅

お泊りは白馬館グループの各山小屋で

白馬山荘 開設=4月28日~10月18日 収容=100名 個室(予約制)診療所あり	白馬尻小屋 開設=7月4日~10月18日 収容=20名 大湯薬師下	麓温泉小屋 開設=7月11日~3月30日 収容=100名 湯所の天然温泉	椋池ヒュッテ 開設=4月28日~5月5日 6月1日~10月18日 収容=100名
キレット小屋 開設=7月4日~9月30日 収容=100名 新築なった小屋からの大展望	五竜山荘 開設=4月28日~10月18日 収容=100名 五竜岳・白岳の絶景	白馬大池山荘 開設=8月20日~10月18日 収容=250名 白馬大池湖畔	親の原山荘 開設=7月4日~10月18日 収容=100名 松島温泉駅口(約10分)2111

白馬館グループ

長野県知事室第211号 全国旅行業協会登録社員
北アルプス総合案内所
☎05-3214-6005 ☎05-3231-0320
長野 千100 東御船(千代田区)月曜日10-18 東京都千148
白馬 千289-02 長野県白馬市白馬5-15 白馬駅前

★資料請求の方はハガキ又はFAXにて(〒、住所、氏名、生年月日、TEL、男女別、新ハイキング案内)と明記の上お送り下さい。詳細なパンフをお送りします。(無料)

8556
 ▽特別企画「大蔵山・山伏修行」
 日入門」8月15日(約)16日(約)集
 合あべの橋東口テレメイトセンタ
 ー前17時30分(コース)(二日目)
 あべの橋(待合)下市口駅→洲
 川温泉(待合)→(三日目)洲
 川温泉(待合)→山上ヶ橋(往復)
 車+大蔵山六橋→山上ヶ橋(往復)
 川温泉→下市口駅→あべの橋
 駅(約20分)へ金費1410円(定
 員80名)申請申し込み制。中学生
 以上の健康な男子、あべの橋東口
 テレメイトセンター06(624)
 0026
 ▽陸羽ファミリアハイキング「滝
 のある道 東大台コースから中
 滝をめぐり」8月23日(約)集合吉野
 鉄道上市駅前9時(コース)大
 和上市駅→大倉ヶ原(大倉原から
 中の滝をめぐり)東コース(約)大
 和上市駅(約)り、金費無料(バ
 ス代3860円、小人2060円
 は別途)定員300名(電話申し
 込み制)天主寺事務室06(624)
 0382
 ▽近鉄ファミリアハイキング「信
 長親光キャンペーン、伏見桃山
 城・史跡散策」8月23日(約)集合台
 京線緑野駅南口(約)15時
 10分(コース)丹波橋(伏見橋)10
 分(コース)丹波橋(伏見橋)大
 倉記念館(寺田原)本教寺→桃山
 御陵(約)10分、参加自由(無料
 名古屋事業0593(54)70
 07
 ▽鈴鹿ゼンマウンテン「現在所
 属登山」8月30日(早立ちコ
 ース)出発朝明(約)7時(金野泊者
 は朝明(約)0593(93)17
 89(小笠)0593(93)2
 629(自宅)宿代3600円各
 自支払(コース)朝明(約)根の
 平峠→上水山出合(国宮線)御在
 所(富田)→東山(山根)→バス停
 (約)12:16(朝)中学生以上(当日
 参加費1000円)要申込3日間ま
 で(名古屋地区)0593(54)
 7007(大阪地区)06(77
 5)3566各事務局へ

長親光キャンペーン、伏見桃山
 城・史跡散策」8月23日(約)集合台
 京線緑野駅南口(約)15時
 10分(コース)丹波橋(伏見橋)10
 分(コース)丹波橋(伏見橋)大
 倉記念館(寺田原)本教寺→桃山
 御陵(約)10分、参加自由(無料
 名古屋事業0593(54)70
 07
 ▽比良連続アタック「自滝谷から
 大滝滝」8月30日(約)集合JR堅
 田駅前9時30分(コース)堅田駅
 一坊村(シラクラの壁)牛コバー
 スペリ石(大滝滝)柱谷(木戸峠)
 分岐→山頂(打見山)→高貴(約)1
 7分、参加自由(交通費別)京
 阪事業部06(944)2525
 25
 ▽比良連続アタック「自滝谷から
 大滝滝」8月30日(約)集合JR堅
 田駅前9時30分(コース)堅田駅
 一坊村(シラクラの壁)牛コバー
 スペリ石(大滝滝)柱谷(木戸峠)
 分岐→山頂(打見山)→高貴(約)1
 7分、参加自由(交通費別)京
 阪事業部06(944)2525
 25

山根走、狸背山から清水山」7
 月26日(約)集合伏見御陵駅前8時20
 分(コース)伏見御陵駅前→伏見
 稲荷大社→四ツ辻→桑新寺前→豊
 稲神社→清水山→東山頂公園→栗
 田神社→二条駅(約)9分、参加自
 由(阪急事業部06(944)25
 25)
 ▽多岐回遊とふれあいハイキン
 グ・ウォーキングトレイル「表六甲
 から戻り」7月5日(約)雨天中
 止、集合中・上級コースは六甲ケ
 ーブル下駅9時30分/10時、初級
 コースは六甲ケール山上駅10時
 /10時30分(神戸線六甲山下車
 浜朝から市バスで)ヘコース「初
 級」
 ▽多岐回遊とふれあいハイキン
 グ・ウォーキングトレイル「表六甲
 から戻り」7月5日(約)雨天中
 止、集合中・上級コースは六甲ケ
 ーブル下駅9時30分/10時、初級
 コースは六甲ケール山上駅10時
 /10時30分(神戸線六甲山下車
 浜朝から市バスで)ヘコース「初
 級」

盛産養和社・御厨子親善会「万葉
 の春」香久山・奥山・山田ヶ原
 烏帽子峠→桜井(約)7分、講師
 武蔵川女子大学教授清原和義氏
 ▽万葉の大和路を歩く会「バスツ
 アー・主の乱をゆく」(近畿文化
 から弘文館へ)8月9日(約)集合
 近畿高原の原野バスセンター9時
 (コース)高の原(高の原)→
 (袋井)→天野川→近江国府(約)1
 2分、講師 吉澤伸二氏(大友電子)
 京都府の歴史「右半神社」近江大津
 京師弘文天啓(大友電子)
 一「JR大津駅」桜井(約)7分、講師
 学歴(約)20分(集合)内英正氏、金費6
 500円(金費)8000円
 ○「万葉の大和路を歩く会」へ
 の参加はツアー以外無料ですがデ
 キスト代4000円のほかバス代、
 拝観料などが必要。申込制で一週
 間前までにハガキか電話で(バス
 ツアーは10日前までに往復ハガキ
 で)発行交通「万葉の大和路を歩
 く会」係0742(20)310
 01633奈良市大宮町1-1の
 25

【神宮散策】

▽神宮ハイキング「グルーム祭
 参加 六甲山上と地獄谷(西尾根ハ
 イク) 7月19日(約)集合六甲ケ
 ーブル山上駅17時/10時30分(コ
 ース)六甲ヶ原(丸山)→安楽池
 台(グルーム祭)→ノースロード
 ダイヤモンドポイント(水島山)
 地獄谷(西尾根)→大滝(約)18分(5
 2分)30分
 ▽神宮ハイキング「三木平井山
 どうろハイキング」8月9日(約)集
 合安楽池東口10時15分(コース)
 志願者、自由ヶ原→竹中半兵衛の
 墓→平井山(約)10分(約)10分
 自由、神宮ハイキング078(5
 2)03221

【阪急】

▽阪急ハイキング「六甲ケール山
 から戻り」7月5日(約)雨天中
 止、集合中・上級コースは六甲ケ
 ーブル下駅9時30分/10時、初級
 コースは六甲ケール山上駅10時
 /10時30分(神戸線六甲山下車
 浜朝から市バスで)ヘコース「初
 級」

会員募集

大阪低山部会
 主に日帰り、関西の山々を巡り
 歩いて12年になります。ハイキング
 から登山山までの少人数のメンバー
 で山と自然に親しんでいるグル
 ープです。
 少し遠くへ足を伸ばしたいけど
 一人では自信のない方、登山ガイド
 にも頼りきれない方、山ガイ
 ドを歩きたい方、私たちがそん
 な新鮮な登山スタッフを求めています。
 どうぞご入会下さい。
 40才以上の男女であれば経験は
 問いません。入会とは週1回、地形図の
 読み方、三角点のことなど親切にこ
 ろ指教致します。62円切手同封の上生
 記へ。
 〒5335 大阪市東区野田2の
 5の19
 鹿佐文 啓二

▽京福ハイキング「モーニングハイキ
 ング 山・保津峡コース」8月2日
 (約)雨天中止(集合)船場山山頂9
 時(コース)京福登山(船場山)→
 一合原山→鳥ヶ峰→トロッコ屋津
 峠(約)20分、参加自由(京福電車
 車庫)075(80)5315

▽万葉の大和路を歩く会「二階宮
 ゆく鳥居・豊満道」7月5日(約)
 集合長・近鉄桜井北口9時30
 分(コース)桜井駅→若狭神社→
 安徳文殊院→春日神社・吉備道

▽万葉の大和路を歩く会「二階宮
 ゆく鳥居・豊満道」7月5日(約)
 集合長・近鉄桜井北口9時30
 分(コース)桜井駅→若狭神社→
 安徳文殊院→春日神社・吉備道

せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。當時投稿下さい。
1行15字詰20行以内。

題字・小林坡瑠三

本誌4号の巖砂山。おが故郷の山の近況を。東京のひそひこの記事で知るのも奇妙な体験。巖砂山はかつては「わが村の山」だった。旧五箇村(今は陸止町の一部)の小学校の校歌は「あわれゆかしき足占や……」と歌い出す。足占山は巖砂山の古名。伝説の羽衣天女の末裔とされる大路の安達家の安達利隆君は、小学・中学を通じての同級生である。
しかし、陸止山には五箇小学校6年のときの遠征で登った記憶が。それが一等三角点(安達)の

山であるが故に、遠路はるばる登る人びとがある。ここを知ったのも最近のこと。あれから40余年。何時かは再訪を……と考えているが、浦島太郎の心算を思い知る。とになるかな。
以前から山歩きに興味をもっていたが一人では不安なので行ったことがなかった。
ある日らくさんで『新ハイキング関西の山』を見ても早急入会し、4月12日の山行に初参加した。
北大路駅についたら雨が降って

きたが、祖父谷林道にいたときには止んでいた。巖砂山頂上あたりから再び雨が降り出し、早急場所についた頃は雨がすぬれで寒かったが、温かいウインドウをおおずを分けてもらって寒さも消えた。
午後には雨も上がり、陽もさす時もあり、二ノ瀬駅についた。
歩いていて感じたのは皆さん脚力の弱さ。私は歩いてゆくののがやっとで景色を見る余裕がなく足元ばかり見て歩いた。
翌日心地よい筋肉痛があった。
(内田清彦)

3月15日(雨)、雨だ。雨が降った。待ちに待った雨が降った。先日買ったゴアテックスの雨具が着れる。昨年夏に友人に譲られて、月一回山行を始めた。フーラー、ヒートとみんなのあとをついていくのがやっとの状態で、近頃では、疲れも知らず登れるようになり、靴と雨具はよい物になりました。靴と雨具はよい物を「アドバンス」で買った真つ赤なモンベルの雨具を着て出かけました。午後から大きく雨れそうなのでシナイハキングとしゃれ込んでみた。四天王寺から住吉大仏堂我孫子観音から大和川を渡り、堺市へ。雨の日曜日のせいか会う人も少なく、のんびりとハイキングを楽しみました。
(堀野良介)

17日 山北山と山西山のずれも同「中戸」へ。
16日 「点のつどい」例会にて山北山へ(参加12名)
23日 山北山(山北山)へ。今月8点、計二〇八点、32交。
27日 「大和後援会」例会。日張山(大和後援会)と字水六分村社へ。水神社にて、やまとの水引の朝水をみまきとする。(参加13名)
(下田隆雄)

4月15日(雨)、雨だ。雨が降った。待ちに待った雨が降った。先日買ったゴアテックスの雨具が着れる。昨年夏に友人に譲られて、月一回山行を始めた。フーラー、ヒートとみんなのあとをついていくのがやっとの状態で、近頃では、疲れも知らず登れるようになり、靴と雨具はよい物になりました。靴と雨具はよい物を「アドバンス」で買った真つ赤なモンベルの雨具を着て出かけました。午後から大きく雨れそうなのでシナイハキングとしゃれ込んでみた。四天王寺から住吉大仏堂我孫子観音から大和川を渡り、堺市へ。雨の日曜日のせいか会う人も少なく、のんびりとハイキングを楽しみました。
(堀野良介)

5月3日(雨)、雨だ。雨が降った。待ちに待った雨が降った。先日買ったゴアテックスの雨具が着れる。昨年夏に友人に譲られて、月一回山行を始めた。フーラー、ヒートとみんなのあとをついていくのがやっとの状態で、近頃では、疲れも知らず登れるようになり、靴と雨具はよい物になりました。靴と雨具はよい物を「アドバンス」で買った真つ赤なモンベルの雨具を着て出かけました。午後から大きく雨れそうなのでシナイハキングとしゃれ込んでみた。四天王寺から住吉大仏堂我孫子観音から大和川を渡り、堺市へ。雨の日曜日のせいか会う人も少なく、のんびりとハイキングを楽しみました。
(堀野良介)

4月15日(雨)、雨だ。雨が降った。待ちに待った雨が降った。先日買ったゴアテックスの雨具が着れる。昨年夏に友人に譲られて、月一回山行を始めた。フーラー、ヒートとみんなのあとをついていくのがやっとの状態で、近頃では、疲れも知らず登れるようになり、靴と雨具はよい物になりました。靴と雨具はよい物を「アドバンス」で買った真つ赤なモンベルの雨具を着て出かけました。午後から大きく雨れそうなのでシナイハキングとしゃれ込んでみた。四天王寺から住吉大仏堂我孫子観音から大和川を渡り、堺市へ。雨の日曜日のせいか会う人も少なく、のんびりとハイキングを楽しみました。
(堀野良介)

途中の谷は雨が降き、崩壊地も多くな。かなりのアルバイトを強られた。一般の人は八景峠から下るほうがよいだろう。西行原付近の林道に駐車していたのでなんとかがんばって、抽断川に降りついてホッとした。久しぶりに充実した2日間だった。
(谷内隆雄)



どこへ行くか
SHC関西サービス
チェーンへ

SHCサービスセンターを利用するとき、電話か往復ハガキで必ず予約を下さい。
ご予約のときに料金を記載して下さい。

<p>名峰二ノ瀬登山(小白山・大白山)甲斐駒ヶ岳の登山(山北山)1日(山北山)甲斐駒ヶ岳の登山(山北山)1日(山北山)甲斐駒ヶ岳の登山(山北山)1日</p> <p>福島・二ノ瀬温泉 日経連 大和館 〒996-0105 0248-1412022 0248-1412022 0248-1412022</p>	<p>秩父鉄道(ターボ)券も 更武鉄道)利用できます 秩父 不動の湯 〒366-8 埼玉県秩父市山田243-12 0494-2311126</p>	<p>富士登山(富士五湖) 東海自然歩道 (石切山・ハルモミ(紀伊) 三ツ山の原 Sanyon コットンテール 〒401-0105 山梨県南都留郡山中瀬村平野 0555-18515</p>	<p>四季旅り(すずか)乗鞍高原のハイイク上高地・乗鞍岳へ。冬はスキーや雪遊びと味の宿・日経連温泉旅館 けやき山荘 〒399-0115 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 0263-932555</p>
---	---	--	--

<p>汗をたっぷり流せる温泉と 日本海の絶景と山の幸 ハイカーの宿 ナガサキロッジ 〒949-21 新潟県中頸城郡 妙高高原町の平湯温泉 0255-18612261</p>	<p>高山の花、温泉の花 妙高山と火打山 百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュムンテ 〒949-21 新潟県中頸城郡妙高高原町 0255-18612261</p>	<p>休憩飲食入浴も歓迎 10名以上マイクロボスで送迎 箱根仙石原温泉 福 館 〒250-06 神奈川県足柄下郡 箱根町仙石原139 0450-149041</p>	<p>山小屋風のペンション 山アルプス北野・八ヶ岳登山 山女釣り(中央線日野駅より 送迎あり) フロア・バルコニー かぶと村 〒404-8 山梨県高根町下湯沢 2424-4 0555-14712541</p>
--	---	--	--

山行計画 SHC関西

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように入会費を申し込んでください。「費用」のほかに参加名簿代その他の費用代金をお預けすることがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はお断りします。連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。別会の参加者全員に補償保険がかけられています。出発直前の関係に保険料(日額50円)・夜行口舟りの場合は2日になり1000円を支出して頂きます。(AIC保険会社と契約) 傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害補償金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があつた場合は解散時までには保に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ニッケル・5本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢登り・水巻登はんを目的とした山行。④宿泊場所内の事故(詳細は係まで)。

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会員外と記入) 生年月日 (年齢) 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て各欄にご自分の住所氏名を記入してください。

高都北山歩き
期日 7月12日(日)日帰り
集合 出町朝駅7時30分(7時45分発に集合)
コース 出町朝駅→平→皆子谷出合→皆子合→皆子山→寺谷→平→出町朝駅(解散18時30分頃)
費用 約1500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山1」
係 昭文社「京都北山1」
申込み 田大祥10の10村田まで
京都府警署警務課までご連絡。各歩きがあります。足元はしっかりとし、(本誌記事34頁参照)雨天中止。
女学生歴史散歩4
記尾峠から金剛山(健勝向き)
期日 7月26日(日)日帰り
集合 西新井川岸朝7時
コース 紀伊郡朝霧→香川→行巻杉峠→早時→久留野峠→伏見峠→金剛山→土井峠山口→南海河内長狭駅
費用 約1500円(合宿費除く)
地図 昭文社「金剛山・右衛門山」

日本最高位の温泉 (2400m)
立山・室堂
みくろが池温泉
〒930 富山市五橋末広町
07641416434
ハイキングにノスキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の橋平末下車
0269342421
東京本社・東京都新宿区新宿3-1-20(15番光町ビル)
電話 03-3343110211
黒岳山・妙高火打山・飯綱山
山笠山・苗名池ハイキング
大自然が奏でる四季の詩
日曜車 シャレー黒姫
〒389-13
長野県上水内郡信濃町黒姫高原
電話 0262-55-3171
館内より日本カモシカ毎日20頭以上と、北アのモシカ観察、北ア全体の大型望の湖、春は山菜等、夏は山菜、夏は山菜等、あるおすいん 満山荘
〒382 長野県上水内郡
高山村山田牧場・奥山田温泉
0262-4212527

係 松永憲一
申込み 〒580 松原市岡2の2
222松永まで
「木念記」の中心人物のひとつ、楠木正成のふるさと金剛山の長いアップローナを歩きながら、歴史のロマンに浸ります。雨天中止。
六甲・有馬白石滝から
六甲山(中級向き)
期日 7月26日(日)日帰り
集合 北神急行電鉄(地下鉄)
三宮駅改札口9時
京都からはJR京都駅8時09分発新快速連絡線特急行先頭車両に乗車。大阪駅発は8時30分です。各自キックは三宮駅まで前入のうえ乗車して下さい。
コース 北神急行三宮駅→谷上駅→有馬温泉駅→紅葉谷出合→白石滝→六甲山頂→紅葉谷→雨ヶ崎→ロックガーデン→高野原→飯沼野原川駅(解散)
費用 約1500円(三宮駅起点交通費)
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
期日 8月23日(日)日帰り

係 村田智俊(中西直行)
申込み 〒610-0101 城陽市寺田大陣10の10村田まで
高都北山歩き10
天ヶ岳・百井谷(二般向き)
高都北山グループと共催)
期日 8月9日(日)日帰り
集合 出町朝駅7時40分(7時54分発に集合)
コース 出町朝駅→香原城山→東儀→天ヶ岳→百井谷→鞍馬→出町朝駅(解散)
費用 約1500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山1」
◎出口駅次◎中西直行◎村田智俊

係 鈴木野登山(一般向き)
申込み 〒610-0101 城陽市寺田大陣10の10村田まで
高都北山歩き10
天ヶ岳・百井谷(二般向き)
高都北山グループと共催)
期日 8月9日(日)日帰り
集合 出町朝駅7時40分(7時54分発に集合)
コース 出町朝駅→香原城山→東儀→天ヶ岳→百井谷→鞍馬→出町朝駅(解散)
費用 約1500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山1」
◎出口駅次◎中西直行◎村田智俊

山行報告

スケッチハイキング1
其良を撮ろう
4月12日(日) 霧時々雨一時あられ
京都駅西口線ホーム8・30(集合)
8・47(赤良駅)→40(大原嵐10)→30(10)→40(大原嵐11)→40(11)→50(クロトノハゲ12)→40(集合)→少々スケッチ→大平スケッチ→散策→14・15(末行杉14)→40(14)→45(大原嵐15)→25(15)→49(志賀原)→16・24(京都駅西口線)→16・

あなたのふる里になりたい
スキー場まで歩いて1分
白馬ファミリアペンション
和 田 森
〒399-93 長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
電話 0261-7315351
八ヶ岳南北線走の中心地
59年秋新築完成全館暖房
木の香匂う新築全館暖房
オーレン小 屋
1泊2食付 4500円
4月末・11月末開張
〒391-102 長野県北安曇郡
茅野市島平2720 小平 勇
電話 0266-721279
日本唯一の女人禁制の山(大乗山)
「百名山」の登山口
細村の登山入口にもあり
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋荘八
1泊2食付 7,000円から
〒638-104 和歌山県
余良川吉野郡天川村清川
電話 0747-640309
九州の最高峰・日本百名山
宮之新岳に一番近い宿
屋久島温泉登山口
ホテル 磯 辺 荘
ホテル 磯 辺 荘
〒899-143 鹿児島県
鹿児島県枕崎町久阿原
電話 0997441613021

59 (編集) あいにくの雨模様。クロトノハゲでは、五分間雨が切れたわずかのチャンスを通さず、スツツチした人もいました。あとは霧をしておられに追われるように下山。

○(参加者) 鈴木 幸 福屋勇藏 福田勝治 田中重子 光川二葉子 赤川清子 古藤良二 松田正彦 ○(保田) 岡田田島男 計10名

豊谷山・二ノ瀬ユリ

4月12日(日) 曇時々雨のち晴 北大路バスターミナル8・00 実業合会 8・15 (タクシ) 相模谷林道 8・45 9・15 雑沓 9・30 1 兵谷山10・50 11・00 北山荘11・25 屏倉 12・50 滝谷峠13・25 1 一夜渡峠15・25 富士神社15・45 16・00 1 二ノ瀬16・11 1 出町柳16・35 (解散) ツツチがようやく花開いた頃、芽吹きもチラホラ、雨をさけて北山荘を借宿して昼食、雨も午後から上がり比較的よく見えた。東京新ハイから9名の参加があつてにぎやかな山行となった。道

路めりがとうとういきました。

○(参加者) 井川那保 井川慶一 竹内正三 飯尾 隆 山加加谷千 高橋裕子 深坂 宣 中井ひろみ 星野正弘 井上恵美子 松林立葉 内田裕三 山岸智子 奥山繁三 西村勝彦 小川機生 小川寛子 嶋田重子 山口恵美子 吉田昌一 辻 和子 大首健枝子 西澤恭子 ○中西信行 ○村田智俊 計26名

大和葛城山

4月13日(日) 雨のち曇り 近鉄御所駅9・00 (実業) 9・25 1 葛城ロープウェイ前9・43 1 藤ノ瀬9・52 行者ノ滝10・10 1 京城山山頂11・40 (昼食) 13・00 1 ロープウェイ前14・00 14・02 1 御所駅14・20 (解散) 昨夜来の大雨の為、中止。雨でも登ろうと集合したメンバーで、雨をついて登った。山頂付近で雨が上がりだし、しばらく水溜りの世界を歩いた。

4月25日(日) 晴(両日共) 1 (二日) 下市口駅13・00 (実業) 13・15 登 大川川合14・30 1 ミナライ溪谷口15・00 1 白雲岬15・00 1 河川温泉旅館17・20 (泊) 2 (二日) 旅館7・10 1 大塚大橋 7・30 1 レンガ辻9・15 9・35 山上辻10・10 1 10・20 1 榎村ヶ 岳11・10 1 11・20 1 山上辻12・00 (昼食) 12・30 1 法方峠13・30 1 流籠14・30 1 15・20 1 洞川15・40 1 下市口駅17・00 (解散) 2 (二日) 共よく晴れて、ミナライ溪谷と榎村ヶ岳を歩いた。気分爽快な山旅と温泉の宿でゆったりとくつろいだ2日間でした。洞川名水まつり、の開催中、名水ゴトヒは絶好景でした。

会員募集

KKG 京都北山グループ 「京都北山」をメインに関西の山一円へ日帰りハイキング。四季を通じて、月々4回、年間40回以上山行しています。遠征もあり、特に「京都北山」は実装なルートの特徴、未知への追求、モットーにして、知られないコースも歩きまわす。「京都北山」を歩いてみたい方はどうぞ御入会下さい。経路、日程、性別は問いません。入会は随時、申し込み、お問い合わせは左記へ。

《事務局》 〒602 京都市上京区堀木町小川西入ル TEL 075(211)0534 出口電次方

踏岳11・55 (昼食) 13・00 小波須峠15・15 1 大石橋14・25 1 小波須山の家14・55 (解散) ショヤシオにはまだ早過ぎたがアカヤシオが咲いていました。頂上からは遠く、比良山系、琵琶湖が望め、みんなをきげんやでした。

新ハイキングクラブ関西

入金の手続き このページの山行例案を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちといっしょに味わいませんか。リーダー(総)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い代金を払い、宿泊料はすべてワリカンです。新ハイキングクラブ関西の活動はまたお楽しみください。 あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してのたのしい仲間になりませんか。会員には毎月「新ハイキング」別冊関西の山(年間6冊)をお届けします。会費は2,000円

ページの山行例案に参加できます。 入会金 5,000円 (パスポート代) 年会費 2,500円 (資料費) です。切手代500円を別途送りになれば請求書1冊をさしあげます。新ハイキングクラブ関西への入会申し込みのこの雑誌に挿入の随時利用紙をご利用ください。第四号から送本せんとお申し込み下さい。140〜145バックランパー在庫あります。ご希望の方は、300円以下の送料が、挿入の随時利用紙で請求代金金のうえお申し込み下さい。定価各4,500円 (送料は当会で負担します)

○新入会者紹介

大村 嘉 木下隆子 倉田 実 日野功雄 渡辺浩之 渡辺美代子 西山裕子 谷村 繁 塩見不二子 中村 登 石川浩之 牛木大雄 古川朝子 野崎 秀 高橋礼時 新築孝子 太田二雄 大隈ふじこ 石川正 坂下英次 田中かね子 松尾 弘 阪田勉子 北川良子 前田幸子 鈴木耕蔵 大井はるか 松林立葉 井川慶一 上田千枝子 鈴木直孝 中山栄一 矢崎かく南 田中 巨 秋山きよ 山加加谷千

山内光夫 山内祥子 中井ひろみ 原 遊子 安中貞夫 安東明子 戸部 新 岡安元正 立花康男 本岡啓一 中村啓一 杉山隆重 小松純 井上英平 柳 千多子 宅 盛之 岩子 石渡隆雄 上田徳治 岡本政一 山並清吉 山並美津 下元正道 波多江寿昭 黒沢 孝 住田 隆 竹村葉朗 白井善三 飯田 昇 飯田政子 杉本正春 石田和彦 石田輝子 寺尾成徳 林 浩男 林 喜美子 寺尾清治 高山直紀 森川好雄 坂東節子 小林法三 岩田 隆 川畑清雄 長田義弘 高橋由貴江 中山義之 小川二三 渡邊 謙 渡邊祥子 高橋幸彦 田中三喜男 渡辺健治 小林 茂 渡辺正敏 上村 肇 小谷光子 和田博二 川西新也 安原直久 戸前のお子 北尾 博 田邊 彰 大橋則夫 川端 守 村上高共(アソビまで)

4号6ページ中設け行目、ズミミザクラとありますが、全く別種のものでした。(林 辰雄さんの御指摘)

新ハイキング社 〒114 東京都北区滝野川7の6 TEL 03(3915)8110 振替口座 東京3-146915

東京版 「新ハイキング」(月刊) 定期購読の手続き

東京版「新ハイキング」誌は月刊です。昭和25年創刊で、以来11年間全国のハイキングファンに親しまれています。 関東、甲信越の山を中心に北海道、東北から九州までハイキング情報がいっぱいです。 定期購読を御希望の方は、 入会金 5,000円 年会費5,400円 です。郵切郵便をご利用いただき左記へお申し込み下さい。

新ハイキング社 〒114 東京都北区滝野川7の6 TEL 03(3915)8110 振替口座 東京3-146915